

末日聖徒イエス・キリスト教会

# 聖徒の道

1986  
12



# 聖徒の道

## 1986年12月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン  
十二使徒定員会：マリオン・G・ロムニー、ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン

顧問：ジョセフ・B・ワースリン、ジョン・H・グローバーク、ジェームズ・M・バラモア、ヒュー・W・ピノック

編集長：ジョセフ・B・ワースリン

教会機関誌ディレクター：ロナルド・L・ナイトン

編集主幹：ラリー・A・ヒラー

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

子供の頁編集：ダイアン・ブリンクマン

レイアウト/デザイン：シャリ・クック

制作：レジナルド・J・クリステンセン

マーケティング・マネージャー：トーマス・L・ピーターソン

聖徒の道 1986年12月号第30巻第12号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社

定 価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

普通号150円,大会号(1,7月号)350円

International Magazines PBMA0529JA

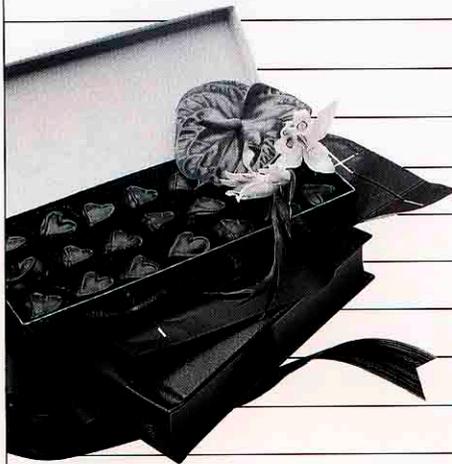
Printed in Tokyo, Japan.

Copyright ©1986 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部経理課 振替口座番号/東京0-41512)にてご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先……〒106東京都港区南麻布5-10-30/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部経理課 ☎03-440-2351(代表)●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ……〒194東京都町田市小川1704-1/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター/☎0427-96-2820

### ●—も く じ

自己を捧げる	ゴードン・B・ヒンクレー	2
主が招いておられる	ジョン・フレーザー	6
クリスマスの愛の贈り物	マリロー・D・パデランガ・イドス	8
羊飼いの野で得た教訓	ビッキー・H・ランドール	9
「心を一に」	マリアン・マイヤーズ・シャムウェイ	10
什分の一の神聖な律法	ロバート・D・ヘイルズ	12



主エスよ、わが胸	トッド・A・ブリッチ	17
寝床もなく(新讃美歌)		表3

### —若人のために—

愛は命なり	バーバラ・B・スミス	20
はちみつとすばらしい一致	キャサリーン・ルーベック	24
人の値は大いなり	ポール・B・サーグッド	28
崖を行く	S・オラニ・ダラント	30

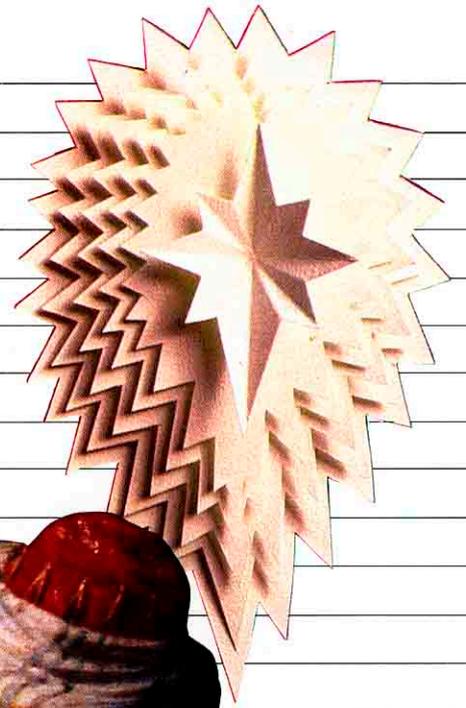
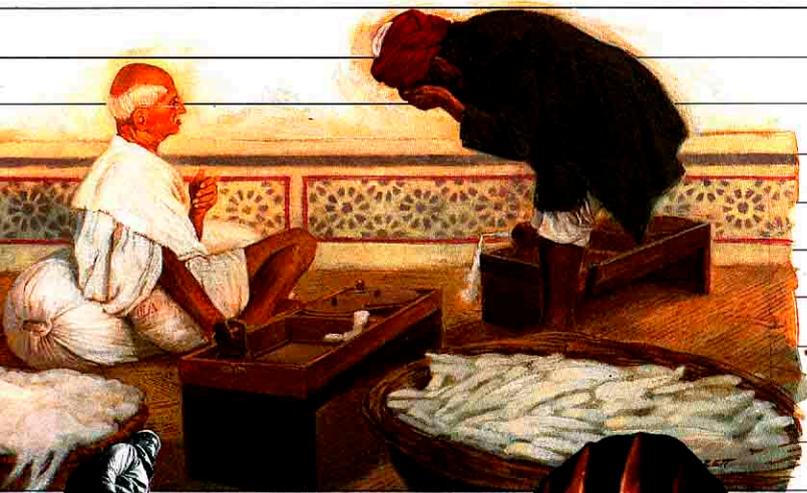
チャーチニュース、各地のたより

聖徒の道 索引1985-1986(別冊付録)

子供のページ(別冊付録)

クリスマスカレンダー		1, 16
------------	--	-------

クリスマスはクリスマス	シェリー・ジョンソン	2
クリスマスカレンダーのつくり方		7
モルモンけいのクリスマスのお話	パット・グレアム	8
切りぬいてお話ししましょう		12
おもちゃばこ		14
みんなで作りましょう		15



# 自己を捧げる

救い主は私たちに、  
どのような贈り物をするよう  
望んでおられるでしょうか。

第一副管長  
ゴードン・B・ヒンクレー

**ク**リスマス、それは、全人類の贖い主となるべく御子を遣わして下さった永遠の父なる神の偉大な贈り物について語り、ほめ歌うときです。また、世を救うために、みずから命を捧げてくださった御子自身の無比の贈り物について敬虔な気持ちで瞑想し、御子に敬意を表わす最良の方法に思いをめぐらすときです。

御子であられるイエス・キリストは、創造主として御父の指示を受け、私たちの住むこの地球を創造されました。またアブラハム、イサク、ヤコブの神として、聖霊に導かれるままに語った古代のすべての予言者たちのみたまの源とされました。古代の予言者は、御子のことを語っては王をとがめ、民を戒めてきました。また聖見者としていろいろな啓示を受けながら、約束されたメシヤの降臨を待ち望んできました。「それゆえ、主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる。見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルととなえられる。」(イザヤ7:14)

「その上に主の霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。」(イザヤ11:2)

「まつりごとはその肩にあり、その名は、『霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』ととなえられる。」(イザヤ9:6)

神の御子であられるイエス・キリストは、身を落とし、みずから死すべき肉体

を受けられました。ニーファイが示現で見たように、すべての処女の中で最も美しい処女が、母親としてイエスに肉体を、父親である永遠の父なる神が死に打ち勝つ力を授けられたのです。

## 誕生された王への贈り物

宿に部屋をとることもできず、イエスは誕生と同時にかいばおけに寝かされました。これらを示現で見ていたニーファイに、天使はこう尋ねています。「汝は神のいつくしみ深いことを知っているか。」(I ニーファイ11:16)

偉大なるエホバがなぜ人間の中に来られ、かいばおけのようなところに寝かされたのか、ローマの支配下にある、敬遠されたユダヤ人の中に来られたのはなぜなのか、これらを完全に理解できる人はいないでしょう。しかし、御子が誕生されたとき、その栄光をたたえる天使の歌声が聞こえたのです。また羊飼いたちも御子を拝みにやって来ました。そして東の空には新しい星が輝き、遠方からは賢者がやって来て、黄金と乳香と没薬とを捧げたのです。おそらく彼らは、生まれただけの王に贈り物を差し出し、驚き恐れながらもその小さな手に触れたに違いありません。

私たちの知る限りでは、御子の幼年時代、少年時代は特に変わったものではなかったようです。ただその時期の御子について、ルカはこう述べています。「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。」(ルカ

2:52) イエスは、人々の中でいろいろなみ業を行なった奇跡とも言える3年間に、模範と説教により、人の心をのちのちまで豊かにさせてくれる数々のすばらしい教えを施しておられます。

示現を受ける力のあったバプテスマのヨハネは、イエスご自身について次のように言っています。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」(ヨハネ1:29)

また、ヨルダンの川では、天から「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなる者である」(マタイ3:17)という全能者の声が聞こえました。

## 奇跡の人

イエスは奇跡の人でした。大いなるエホバとして世を造り、治めてこられたイエスには、地を構成しているもの、生命のすべての機能がよくわかっていました。水をぶどう酒に変えたカナから始まり、イエスは足なえを歩かせ、盲人の目を開け、死人を生き返らせるという数々の奇跡を起こされました。主は、神の御子として受け継いだ権能によって、病人を癒されたのです。

イエスは当時の抑圧された民の、またその後忠実な信仰を持って従ってきたすべての人々の慰め主となってこられました。イエスは私たち一人一人にこのように言っておられます。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わた



ベルナルティノ・ルイーニ二画「バラの聖母」(16世紀ルネサンス, ミラノ, ビブリオテーカ・アンブローシアナ)

しに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ11:28-30)

サマリヤの井戸で、イエスをご自分の教えに救いの力があることをはっきりと言われました。「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」(ヨハネ4:13-14)

### 「わたしはよみがえりである」

イエスは命と死の双方を支配したもうお方です。悲しむマルタに、イエスをご自分の持つ永遠の力をはっきり述べておられます。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」(ヨハネ11:25-26)

私たちは、このキリストの誕生をお祝いするのです。この世の創造者、旧約聖書のエホバは肉体を受け、人類の贖い主となられました。キリストのこの世での使命は、人々を教え、祝福し、癒し、高

揚させること、そして贖いと復活とをもたらすためにみずから犠牲になるという無私の奉仕をすることでした。

もし主を礼拝し、主に従いたいと思うのであれば、主の奉仕の生涯を見習うべきではないでしょうか。私たちはだれも、自分の命は自分だけのものと主張することはできないのです。私たちの命は、神から授かったものです。私たちは自分の意志でこの世に来たのでもなく、自分の希望で世を去るのでもありません。私たちは自分で命の長さを決めることはできないのです。それは神のみこころによって決められるのです。



ジョージョーネ画「羊飼の礼賛」(1510年頃, ワシントンD. C. 国立美術博物館)

命をまるで自分だけの所有物のように扱う人が大勢います。命を粗末に扱おうと思えば、それもできるでしょう。しかし、それでは大いなる神聖な信頼を裏切ることになります。主はこのことをはっきり諭しておられます。「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。」(マルコ8:35)

宣教師はなぜ幸福そうなのでしょう。それは、自己を捨てて人々に奉仕しているからです。

### 愛の働き

では、神殿でみ業のために働く人々はなぜ幸せそうなのでしょう。それは、彼らの愛の働きが、私の知るほかのいかなる仕事よりも、人類の救い主の代理として行なう偉大な業に近いからです。彼らはそうした自分たちの働きに感謝の言葉を求めることも期待することもしません。彼らには、身代わりとなっている人人の名前以外何もわからないのです。

クリスマスにあたり、私たちは特に、自己を捧げることなくしてキリストを真に礼拝することはできないということを認識しなければなりません。

この季節に、一人一人がもっと豊かにキリストの精神を分かち合っていきたいものです。おもちゃや飾り物をプレゼントしたり、貧しい人々に施しをしたりするだけでは十分ではありません。確かにそれも大切ですが、私たちはまず、自分自身を贈り物として捧げていかなければならないのです。

クリスマスの真の意味が私たちの心にしみわたり、父なる神より授かった私たちの命が、自分だけのものではなく、人人のために役立てていくものであることをよく認識できればと思います。

この原則のすばらしい模範者であった



ジャコポ・バッサノ画「マギの礼賛」(16世紀ルネサンス, サンセポルクロ, ピナコテカ)

キンボール大管長が、かつて私にこのように言ったことがあります。「私の人生は、人の役に立ってすりへる靴みたいなものです。」

神の祝福があり、このクリスマスがみなさんにとって喜びの時となりますように、そして意義深い、献身の時となりますように。

### ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのときに、以下の点を話し合うとよいでしょう。

1. クリスマスは、この世に誕生された神の御子に敬意を表わす最良の方法

について思いをめぐらすときである。

2. イエスは奇跡の人であった。この世を創造され、治めてこられたイエスは、生命のすべての機能に通じておられた。
3. 私たちの命は、神から授かったものである。私たちは自分で命の長さを決めることはできない。それは神のみこころによって決められるのである。
4. このクリスマスに、私たちは特に、自己を捧げることなくして真にキリストを礼拝することはできないということを確認する必要がある。

話し合いを進めるために

1. 救い主について、また私たちの生活の中における救い主の生涯の重要性についてあなたの感じていることを述べる。
2. このメッセージの中に、家族で読んだり話し合ったりするのによい聖句や言葉はないだろうか。
3. 話し合いをより充実したものとするために、訪問する前に家長と話し合っておくとよい。



# 主が招いておられる

ジョン・フレーザー

**私**はハンガリーに生まれ、そこでカルビン派の牧師になりました。しかし30年前にオーストラリアへ移住してから、自分がキリストの真の教義を教えていないということに気づくようになりました。

それで、背教をテーマに本を書き始めました。私は聖書の勉強を通じて「万物の更新」がなければならぬことを知り、ついにその回復された真理を探するために牧師の職を捨てました。私はその真理を見つけるのに、長い時間はかかりませんでした。ただ、それが真理であると気づいたのは、後になってからのことです。

1956年のある夕べ、私はどしゃ降りの中をジーロングからメルボルンに向かっていた途中で、ふたりの青年を車に乗せてあげました。彼らが末日聖徒の宣教師だったのです。彼らを伝道本部まで乗せて行くと、伝道部長がモルモン経をくださり、私は喜んでそれを頂きました。しかしそのときは教会に入りませんでした。教会について知りたいとも思いませんでした。

ある晩のこと、私は美しい浜辺にいる夢を見ました。白髪の男性が腰の深さまで水につかっていた。白い服を着て、モルモン経を掲げ、「救い主があなたを求めておられる。水の中に入りなさい」と呼びかけるのです。その翌朝、私は夢で見た男の人の姿をスケッチしておきました。その後も私の真理の探求は続いていました。

それからしばらくして、ふたりの宣教師が来訪しました。彼らがモルモン経を持っているのを見たので中に入ってもらい、自分の描いたスケッチを見せました。すると宣教師たちはたいそう驚きました。それがデビッド・O・マッケイ大管長の写真にそっくりだということです。

スケッチをもらいたいと頼まれました。私の夢の話とそのスケッチがどういう経路でかソルトレーク・シティーに行き、当時の十二使徒定員会会長であったジョセフ・フィールディング・スミス長老から私あてに、1通の手紙が届きました。スミス長老は手紙の中で証を述べ、私にバプテスマを受けるように勧めてくれました。

ひとりの宣教師が許可を得て伝道期間を1週間延ばし、私の家に滞在して一緒に福音を研究しました。ところがそれを終えても、私は失敗してはならないという恐れで身動きできず、そのうち宣教師との接触がなくなってしまったのです。

しかし福音の研究は続けました。そして、1974年も押し迫っ

たある日、ニューサウスウェールズのウォロンゴンにある教会堂に、宣教師に会いたいと書いたメモを届けたのです。再び勉強が始まりました。しかし私は3度もバプテスマの予定日を決めながら、そのたびに延期してしまいました。(一度など、フォントに水まで張られたのにです)

私のその優柔不断な態度も、オーストラリア政府の翻訳者という立派な仕事の口がかかって、終わりを告げました。その仕事に就けば、毎日曜日にキャンベラまで行かなければならず、教会への出席が不可能になるからです。私は教会には入らないで、仕事の方を取ろうと決めたのでした。

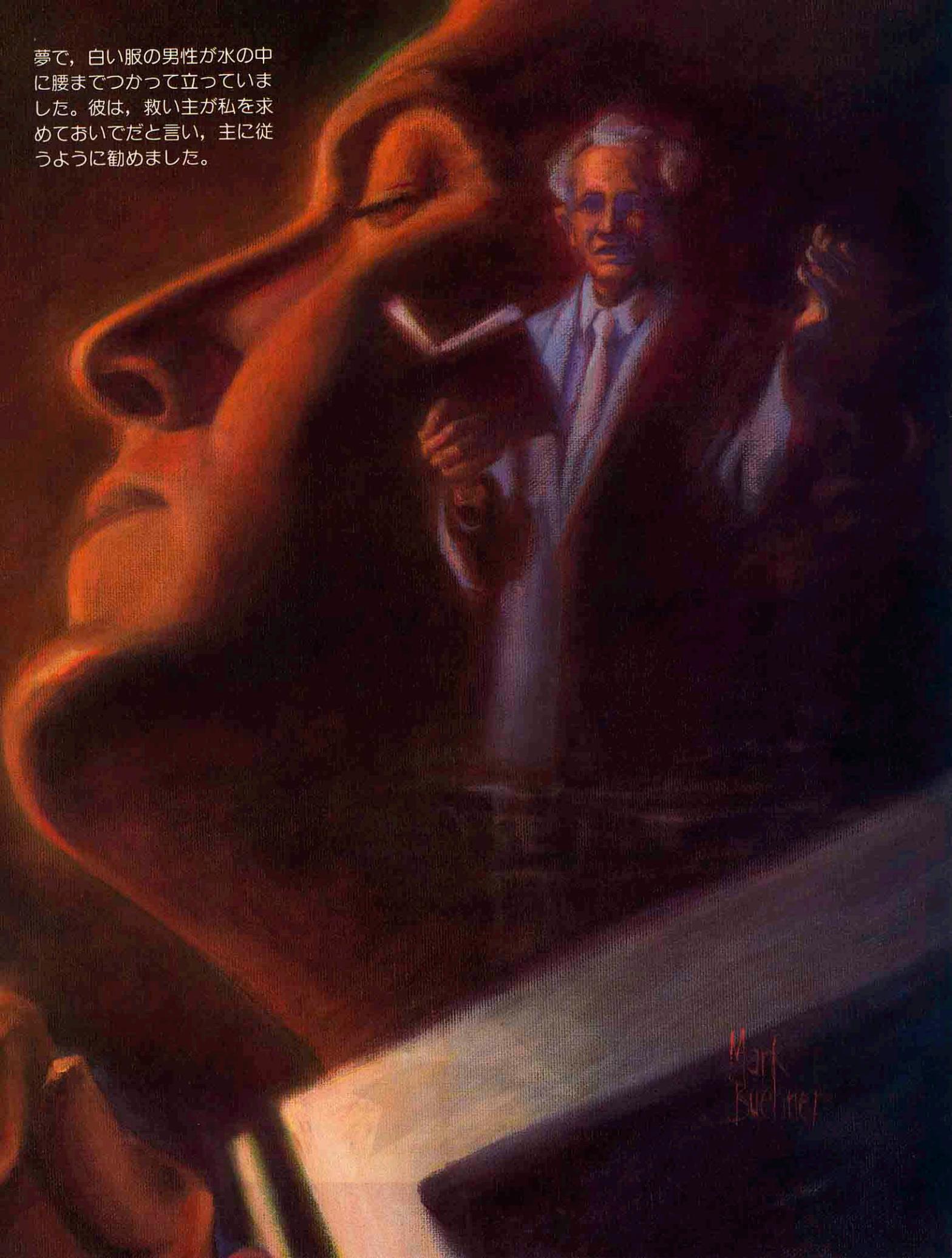
その決定をして間もなく、私は心臓発作に見舞われ、そのため職を受けるには不適格となりました。そこでまたバプテスマの約束をしたのですが、今度は以前の牧師仲間から圧力がかかり、気持ちが変わりました。

その頃、ニューサウスウェールズの全移住者を担当するカルビン派監督への就任の誘いがありました。ところが、その申し出について思案しているときにまた心臓発作が起きたのです。7回目の発作でした。そのとき私は、自分がいつ死ぬかわからないことを悟り、バプテスマを受けたいと思いました。

1975年3月15日、私は真理を知りながら実に長い間行動を先延ばしにしていた、ようやくにしてバプテスマを受けたのでした。

今私は、この福音を隣人に、とりわけハンガリーの人々に伝えたいと心から願っています。私は14冊の小冊子と、モルモン経のかなりの部分をすでにハンガリー語に翻訳しました。いつか宣教師としてハンガリーに帰り、この回復された福音、主が長年にわたって私に受け入れる備えをさせてくださったこの福音を、同郷の民に分かちたいと願っています。

夢で、白い服の男性が水の中に腰までつかって立っていました。彼は、救い主が私を求めておいでだと言ひ、主に従うように勧めました。



Mark  
Buchner

クリスマス間近のことでした。私は歩き疲れたのと、その日の出来事にながかりしたのとでくたくたになって家に帰りました。ハワイにある教会の大学を卒業してフィリピンの実家に戻ってから3カ月たっていました。しかし、私が就職することのできた唯一の仕事は百科事典の訪問販売をすることでした。

「きょうはどうだったかい？」母は私の疲れた表情をのぞきこみながらためらいがちに聞きました。

「だめだったわ。この頃は百科事典をクリスマスプレゼントにする人はあまりいないみたい。」悲嘆にくれた声でした。家族にクリスマスプレゼントをあげるには少なくとも1セットは売らなければなりません。私は3年の間、家族と共に休暇を過ごしていませんでした。私はこのひとときを待ちこがれていました。それにも増して私が楽しみにしていたことは家族にプレゼントをどっさりあげることでした。もうクリスマスまであと2

日しかないというのにお金がまったくありませんでした。ふいに、ふたつのかわいらしい手が私に触れました。一番小さい妹のミラでした。「私のチョコレートのことは心配しないでね」とささやきました。「どっちみち甘い物は良くないもの」と言って愛らしく私の手を取り食卓へ連れて行ってくれました。

食事のとき、私は家族にプレゼントを買ってあげられるほど本が売れていなくてどんなに残念かを話しました。そして、話を終えるつもりで立ってテーブルをふき始めました。

すると父が口を開きました。「おまえはもう父さんたちにできる限りの最高の贈り物をしてくれたよ。」そう言って父は話を続けました。「おまえはハワイにとどまって卒業後の就職活動をするつもりだった。でも父さんたちは、おまえがいなくてどんなに寂しいかを話して、家に帰ってきてはくれないかと頼んだ。そしておまえは帰ってきてくれた。おまえは品物よりもずっと大切な贈り物を父さんたちにしてくれているんだよ。おまえの愛はお金なんかで買えるものじゃないよ。」私は涙をこらえることができませんでした。父は続けました。

「それにとどき神様は、大切な祝福をもっとよく理解できるように、遅らせてあるひとつの祝福をくださることがある。クリスマスにおまえから新しい靴をもらうのもすてきなことだと思うよ。だけどおまえと一緒にいなかったら、いくら新しい靴があったって、楽しい休暇にはならなかったと思うよ。」

突然、私はどれだけたくさん贈り物を買っていたか気づきました。愛する家族。学校を卒業することもできました。それに、来年にはもっと給料の良い仕事を見つける期待を持ってました。そしてかけがえのないことは、私の周りにいるこの家族を愛し、大切に思うことができたことです。何よりもこのことが、私にできる最上の贈り物だったのだと思います。

父が笑いながらつけ足しました。「ところで、クラッスさんの奥さんから電話があって、お子さんに百科事典を現金で買ってあげることにしたと言っていたよ。」

「バンザイ！」ミラは叫びました。「これでチョコレートが買えるね。」

私は笑うどころか泣いてしまいました。なんてすばらしいクリスマスでしょう。家族と家において、しかも新しい世界が開けてきたのです。

# クリスマスの 愛の 贈り物

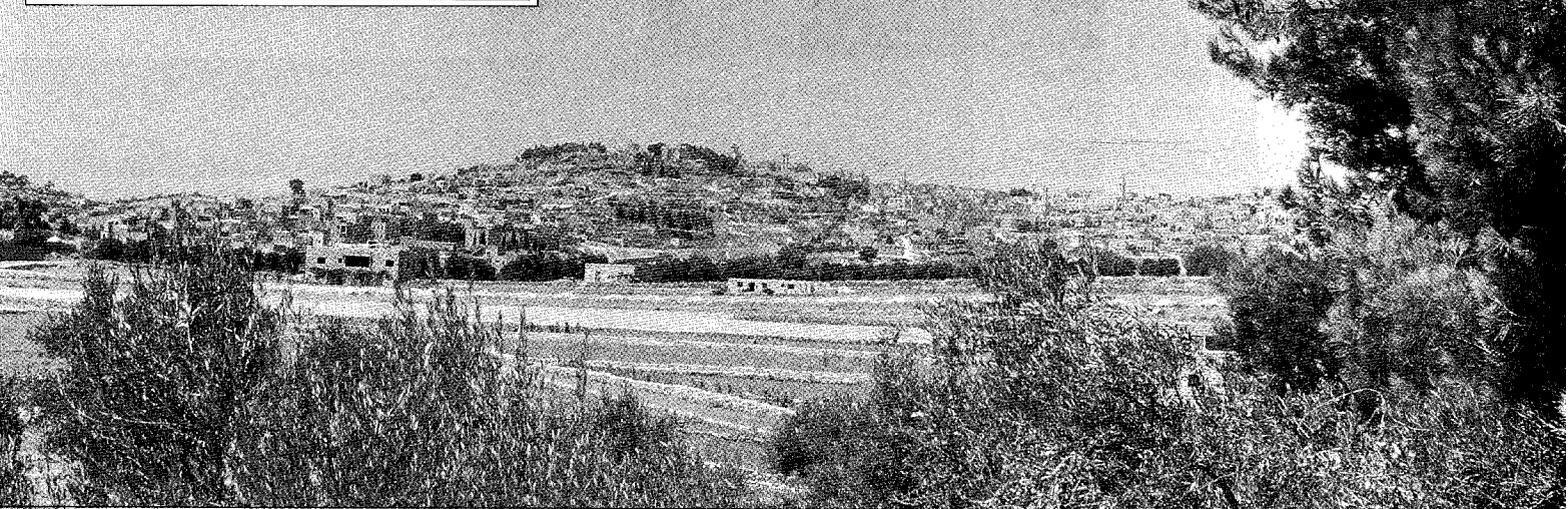
マリロー・D・パデランガ・イドス





# 羊飼いの野で 得た教訓

ビッキー・H・ランドール



羊飼いの野から見たベツレヘム。(左上)とりてて囲まれた山、ヘロディオンの

バスを降りると、ベドウィン人家族のテントが目に入りました。道のはるか向こうには、ベツレヘムの町はずれの丘の上では羊が牧草を食んでおり、またその番をする2、3人の子供たちの姿が見えます。ツアーでやって来た私たちのグループは、2週間のイスラエル滞在を終え、証会のために羊飼いの野にやって来たのです。

岩の多い丘の斜面に腰を下ろし、一方に目をやるとベツレヘムが、その反対側のやや左の方に目をやると、とりてて囲まれた山、ヘロディオンが見えました。その頂に、ヘロデ王は、プールや庭、200段の大理石の石段のある豪華な宮殿を建てたのです。私たちは、その日の早朝にそこを訪ねました。丘の上からながめていて、私にはそこが、だれもが欲するこの世的な成功を代表する場所のように思えました。一方、ベツレヘムの村は、聖地への訪問中私たちがイエスについて学

んだことすべてを象徴しているかのようでした。

ベツレヘムとヘロディオンに交互に目をやりながら、私は思わずこう自問しました。「私はどちらを選ぶだろう。もちろん、救い主に従う方を選びたい。でも、日々の決断や行ないが、思いとは別の方向に向いてはいないだろうか。」

クリスマスキャロルを歌い、証を述べ合いながら、私は間違ったことを最優先させることがいかにたやすいことか、永遠という枠の中では取るに足らないような事柄に多くの時間を費やし、あれこれ思い煩うことがいかにたやすいことか、そしてまた物質的なものを永遠に価値あるもののように思うことがいかにたやすいことかをつくづく思い知らされたのです。それに比べ、イエスが言われた「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない」(マタイ6:24)という言葉思い起こすのは、なんとむずかしいこと

でしょうか。

「私はどちらを選ぶだろう。」どうしても払いのけることのできないこの問いに、次の羊飼いの言葉が、まるで祈りのように繰り返し聞こえてきたのです。「さあ、ベツレヘムへ行こう。(ルカ2:15)

家に戻ってからも、私はそのときの経験をたびたび思い返してきました。ユダヤの丘のかなたに沈む太陽、近くを通る羊の群れ、世のことに心を悩ませず、神の王国をより熱心に求めようという新たな決意をして得られた平安など、実にいろいろなことが思い起こされるのです。

はるか昔のはるかかなたの夕べの丘から、私の耳には、今なお時折、「さあ、ベツレヘムへ行こう」という羊飼いの声が聞こえてきます。そしてその声に、私は賢明な選択を迫られるのです。ヘロディオンは荒廃しました。しかし、ベツレヘムは今なお存在するのです。

なぜ主は地上にこんなにもたくさん  
の異なる文化や伝統、思想を散  
りばめて、言葉を乱されたのでしょうか。  
言葉や歴史がこんなに多様でない方が、  
あらゆる国の人々に福音を伝えるのにど  
んなに楽かと思うことがよくあります。  
しかし台湾での伝道と東南アジアのふた  
つの難民キャンプでの生活を経験して、  
私は一見混乱とも思える中に英知を見る  
ことができました。

台湾に2カ月ちょっと滞在していたと  
き、中国人の姉妹が同僚として与えられ  
ました。チェン姉妹と言います。自己紹  
介が済むとチェン姉妹が私に言いました。  
「役に立つような福音の原則をあなたか  
らたくさん教えていただけそうですわ。」  
彼女の期待に圧倒されるような思いがし  
たのを覚えています。

そして当初は、私たちを隔てている言  
葉と文化の壁はどうにも手に負えないも  
のでした。しかし時の経過とともにチェ  
ン姉妹と私の間には、初歩的な私の中国  
語と彼女のまったくと言っていいほど話  
せない英語とで及びもつかないほどの心  
の交流が深まっていきました。そしてあ  
る日、チェン姉妹がこう言ってくれたの  
です。「マイヤーズ姉妹、あなたはもうアメ  
リカ人ではないし、私も中国人ではない  
わ。私たちは姉妹なのよ。」

彼女が東京神殿でエンダウメントを受  
けたときには、私も彼女の傍らにいまし  
ました。チェン姉妹は私が彼女の教師だと思  
っていたようです。ところが彼女こそパ  
ウロの言葉にあるように、一致の意味を  
私に教えてくれた人なのです。「この世界  
と、その中にある万物とを造った神は、  
……また、ひとりの人から、あらゆる民  
族を造り出して、地の全面に住ませ  
……て下さったのである。」(使徒17:24,  
26)

それから私は残りの伝道期間に、合衆  
国へ移住するアジアの難民に文化面での  
オリエンテーションと英語のクラスを提  
供する機関で働きました。この経験から、  
自分と信仰を異にする多くの人々への理  
解と視野が広まったと思います。

ある日のレッスンで家庭用品の使い方  
と清掃方法を教えたあと、少し時間が余  
りました。そこで私は生徒の訓練のため  
に、通訳を通じていくつか質問をしまし

# 「心をーに」

マリアン・マイヤーズ・シャムウエイ



た。たとえば私が、「あなたの住所は」と  
尋ねると、彼らが答えるというように。  
ところがあるところまでくると、ひとり  
の年老いたカンボジア女性が答えを言え  
ないために、若い通訳者がかんしゃくを  
起こし、言葉遣いが荒々しくなってい  
きました。するとその婦人は唇を震わせて何

回かまばたきすると泣き出してしまっ  
たのです。通訳者が何と言ったのか私には  
わかりませんでした。その婦人の落胆  
が手に取るようにわかりました。

その瞬間、私は救い主がそこにおられ  
たらどうなさるだろうかと考えました。  
私が彼女のやつれた手を取って握りしめ

生徒と私には、言葉も信仰も共通するものは何もありませんでした。



ると、彼女は通訳者を通して、カンボジアでの体験を語り始めました。すると近くに座っていた別の3人の女性も泣き出してしまいました。彼らは異口同音に餓死した我が子のことを、さらにジャングルに連れ込まれて殺された人々のことを話しました。

これらの女性たちは皆大きな苦難をくぐり抜けてきた人たちばかりでした。教育の機会もほとんどなく、カンボジア女性の唯一の仕事といたら、家をきりもりすることだけなのです。ここにいる女性たちも、目の前で一番大切な宝物である家族が殺され、あるいは拷問にかけら

れたところを目にしてきたわけです。

私も彼女たちと共に泣いてしまいました。それから通訳を通じて一生懸命に語りかけました。「私がどんなにあなたがたを愛しているかを、お伝えしたいと思います。皆さんがどんなにつらい体験をしてこられたか、私には完全に理解できないことをよく承知しています。でもいつの日か平安を得て、今まで手にしたことのないすべてのものが与えられることを心から知っています。」

クラスが終わると、私はとても家に帰るまで待ち切れない思いで主に尋ねてみました。「私たちの周りに貧しい人々がいなくなって、世界中の人々がすべて完全にひとつの心と思いになれるのは、いつのことでしょうか。」私は聖典を手にとると、索引から「貧しい」という言葉を探し出しました。このとき私を慰めてくれたのは、私がいつも愛誦している次のふたつの聖句でした。「故に、シオンに就きて汝ら心安かれ。そは、一切生くる者わが手の中に在ればなり。汝らつつしみて、わが神なることを知れ。」(教義と聖約101:16) 次の聖句はもっと有名です。

「主、その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし、精神を一にし、義に住みたまればなり。されば彼らの中に貧しき者一人もなかりき。」(モーセ7:18)

みたまが私の心に降り注がれました。生徒と私の間には、言葉も信仰も共通するものはありませんでした。しかし私の心からの願いは、この世的なものには恵まれず、貧しくはあっても、清さと柔らかな面においては豊かな彼女たちとほかのすべての人々がひとつになることでした。

私はその日のことを決して忘れないでしょう。それは主に仕えることの本当の意味を私に教えてくれました。つまり私が仕えている人々と、愛することも学ぶこともすべて分かち合うことなのです。

この地に住む無数の人々に福音がどのように伝えられるかを、私はもはや心配していません。私たちがみたまを感じる時、言葉や人種、文化の境界は取り除かれます。そしてみたまがあれば、いかに相違が大きかろうが、私たちは互いにひとつとなって仕えることができるのです。

# 什分の一の 神聖な律法

管理監督  
ロバート・D・ハイルズ

**私**は、神聖な什分の一の律法について自分の証を申しあげたいと思います。

## 日の栄の律法

什分の一の律法は、私たちが永遠の生命を得て日の栄の王国で昇栄したときに守ることになる日の栄の律法の一部です。「そは、日の栄の王国の律法に従う能わざる者は日の栄に堪うる能わざればなり。

しも、そのいかなる王国にも一つの律法を与える。かついかなる律法にもまた或る制規と条件ありて、すべて、これらの条件に堪え得ざる者は、皆義しとせられざるなり。」(教義と聖約88:22, 38-39)

「およそ日の栄の王国の律法の諸原則によらずんば、シオンを建つこと能わず。これによりて建てずば、シオンをわれに受け入ることかなわざるなり。」

(教義と聖約 105:5)

## 高度な儀式を受けるための条件

神権のより高度な儀式を受けるにふさわしくなるためには、什分の一の律法を守らなければなりません。永遠の生命を得るためには、男性は主の宮居で自分のエンダウメントを受けて妻と結び固められねばなりません。その福音の高度な儀式を受ける資格があるかどうかを判断する基準のひとつが什分の一なのです。

予言者ジョセフ・スミスが殉教した3カ月後、ノーヴー神殿の建設中に、ブリガム・ヤングは十二使徒定員会の書簡の中でこう述べています。「什分の一の厳密な順守に向けて、着実、堅実に行動を起こしなさい。……そして主の宮居にもうで、主の方法で教えを受け、主の道を歩みなさい。」(「教会歴史」7:282)

大会があった5日後に、当時十二使徒評議員であったジョン・テイラーは、什分の一を納めていない者が死者の代理のバプテスマを受けられるかどうか、ある書記から質問を受けたと語っています。「収入の十分の一、つまり什分の一を納めていない人は死者のためのバプテスマを受けるにふさわしくない。……什分の一を納めることは私たちの義務である。そうした小さな事柄に留意するだけの信仰がもしないとすれば、自分を救い、友を救うだけの信仰はむろんないはずである。」(「教会歴史」7:292-93)

什分の一を納めることは、その人が神殿のエンダウメントを受けるにふさわしいというひとつの証明です。

## 主の収入制度

ジェームズ・E・タルメージ長老はこうのように言いました。

「『什分の一』は主の収入制度であって主はこれを民に要求したもうが、それは主が金銀に不足したもうからではなくて民がそれを納める必要があるからである。

……

『什分の一』の律法を制定した裏面にある根本的な……目的は、収入を与えるということよりもむしろ『什分の一』を納める人の霊を進歩発達させるにある。収入を与えるということは重大な目的である。何となれば教会の仕事を続行するために金銭が必要とされるかぎり、主は与える人の信仰によって聖められた金銭を要求したもうからである。しかし……評価を超えた数々の祝福が『什分の一』の律法に厳密に従う人に保証される。『主がそのように命じたもうているからである。』(ジェームズ・E・タルメージ「信仰箇条の研究」pp.722, 725)

## 信仰の試し

什分の一は、教会員個人の正しさをはかる大きな試しです。ジョセフ・F・スミス大管長はこう言いました。

「この原則(什分の一)によって、この教会の会員の忠実さがはかられる。この原則によって、神の王国を支持している人と反対している人がわかる。この原則によって、だれの心が神のみこころを行なうことと神の戒めを守ることに向けられており、だれがこの原則に反対し、シオンの祝福を拒んでいるかがわかるだろう。この原則によって私たちが忠実であるかそうでないかがわかるので、この原則は非常に大切である。この点で、この律法は神に対する信仰、罪の悔い改め、



「什分の一を納めることは私たちの義務である。そうした小さな事柄に留意するだけの信仰がもしないとするれば、自分を救い、友を救うだけの信仰はむしろないはずである。」

罪の赦しのバプテスマ、聖霊の賜を受ける按手礼と同じくらい必須のものである。もし人がひとつの点を除いてすべての律法を守っており、そのひとつにつまずいているとするれば、その人はその律法を破る者であり、イエス・キリストの完全な祝福を受ける資格のない者であるからである。しかし、人が力や能力に応じて、啓示されたすべての律法を守るなら、その人のすることはたとえわずかであっても、その千倍のことができた時と同じように、神の目から見て受け入れられる者となるだろう。

什分の一の律法は人々が個人として試される試しである。この原則を守らない人は、シオンの福祉に冷淡な人であり、教会員としてその義務をなおざりにしている人であり、……福音の祝福と儀式を受けるのにふさわしくなるべき行ないを拒否しているのである。」（「福音の教義」 pp. 218-19）

ジョージ・Q・モリスは、什分の一を正直に納めるには信仰が必要であると教えました。

「什分の一を納めるだけのお金がないと言うとき、その人は什分の一を納めるだけの信仰がないと言うべきであると思う。私は、什分の一はお金ではなく信仰でもって納めるのだと確信する。なぜなら、人は大金を得て什分の一が多額になると、それを納めることができないからである。彼は什分の一を納めるには多すぎる金と少なすぎる信仰とを持ちつつ、

自分には納める資格がないと感じている。」(「インブループメント・エラ」1953年6月号, pp.435-36)

これにつけ加えたいのは、巡り合わせが悪くてお金も信仰もわずかなため、什分の一を納める余裕がないと感じている人もいます。

金持ちだから、あるいは貧乏だから什分の一が納められないという人はいません。什分の一を納めないでいられる人はいないのです。

南アメリカに住むある若夫婦の話に、私は感動しました。彼らは神殿から何千マイルも離れた所に住んでいました。収入は乏しいのですが、大きな信仰を持ったご夫婦でした。

彼らは主に対して、またお互いに対して、収入があればまず什分の一を完全に納めると約束しました。什分の一を納めてから、いすやテーブルもない小さなアパートで質素に暮らしました。食費を取って残ったお金は神殿行きの資金に充てました。

そうして1年が過ぎました。主に対する什分の一の約束と、神殿に行くという目標は守られていました。その男性の教会員ではない兄弟が、彼らのつましい信仰を見ていました。そしてある日、まるで守護天使でもあるかのように、彼は2枚の航空券を持って来てくれて、ふたりは夢がかない、あこがれの神殿に行けたのです。

彼らは神殿に行き、結び固められました。もうひとつのすばらしい祝福は、その兄弟がバプテスマを受けたことです。彼はふたりの模範と彼自身の犠牲から証を得ました。人のための犠牲が自分の救いに至る扉を開いたのでした。

「わたしの宮に食物のあるように、十



分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。」(マラキ3:10)

「主を試みる」用意は私たちにあるでしょうか。主は待っておられます。

### 正直な什分の一

予言者ジョセフ・スミスが、あるときこのように嘆願しました。「ああ、主よ、<sup>なんじ</sup>汝がいかに、汝が民の財産の什分の一を求めておられたもうかを、しもべに示たまえ。」(「教会歴史」3:44)

1838年7月8日、その祈りの答えが与えられました。

「これを以てわが民が為す什分の一の始めとなすべし。

まずこれを為して後、かくの如く什分の一を納めたる者は、以後毎年彼らの得る全利益の什分の一を納むべし。これを以て、わが聖なる神権のためにする彼らの守るべき永久的定法となす、と主は言う。」(教義と聖約 119:3-4)

什分の一の律法は教会員全員に与えられました。大管長会は、什分の一の律法が現代の私たちに与えられている律法であることを明らかにしています。「周知の最も簡潔な宣言は、主ご自身のみ言葉、すなわち教会員は『毎年彼らの得る全利益(これは収入と理解されますが)の什分の一』を納めるべきであるということ



それぞれが正直に什分の一を納めて得られる祝福を証できるように、家族全員で面接に立ち会おうのが一番良いと思います。

です。これ以外の声明は正しいとはされません。」(大管長会の書簡、1970年3月19日)

什分の一や捧げ物について間違えば、主に対して間違ふのだということをはっきり覚えておきたいと思います。

ジョージ・Q・モリスはこのように言いました。「私たちが神に対して正直に什分の一を納めるならば、主は私たちを祝福し、繁栄させ、信仰を増してくださる。また、主は、正直に什分の一を納める信仰のある人々を通じてしかできないたくさんのお仕事をお持ちであると思う。」(ジョージ・Q・モリス「インブループメント・エラ」1953年6月号、pp.453-56)

シオンの陣営が聖徒たちにミズーリの

財産を取り戻し得なかったわけを予言者が尋ねたとき、主は次のような言葉で答えられました。

「……もしわが民罪を犯さざりせば彼ら今にも贖われ居りしならんに。

されど見よ。彼らはわが彼らに要求したところにおとなしく従うことを覚らずしてあらゆる悪に満ち、彼らの中の貧しくして苦しめる者たちに聖徒たるにふさわしく物資を頒たず。

日の栄の王国の律法の要求する和合一致に従いて一致協力せず。」(教義と聖約 105:2-4)

そして、こうつけ加えられました。

「されば、わが民の律法に従順なることを覚るまでは必ずこれを懲しむるを要

す。もし必ず要すれば、彼らの受くることによりて打ち懲しめらるるなり。」(教義と聖約 105:6)

### 公平、共同の律法

什分の一の律法については全教会員が平等です。富者も貧者も、利益がいかにか大きろうが小さかろうが、だれでも毎年の利益の10パーセントを納めるのです。

私が地区代表の責任にあった今から数年前のことです。その頃教会は、ペンシルベニア州ブラッドフォードにあるほかの宗派の集会所を購入しました。ヨーロッパから輸入され、工芸家によって組み上げられたその美しいステンドグラスには寄贈者の氏名が刻まれていました。レバノン杉でできた手彫りの立派な説教壇にも寄贈者のイニシャルが彫ってありました。礼拝堂正面の椅子席には、建築費の献金が最も多額であったその偉い一族の名前が記されていました。

しかし什分の一は、捧げ物が多ければ祝福が大きというわけではありません。どの教会員も礼拝堂に入り、活動に参加して、平等でいられます。主はそれぞれの捧げ物を公平に見られるのです。正直に什分の一を納める人々は、その忠実さゆえに、必要とあらば主の助けを求め、主の祝福と援助を期待できる人々です。

### 什分の一の処理

教義と聖約の第120章で主は、全教会員に対して什分の一の律法に関する啓示をお与えになりました。その中で、主は明確に述べておられます。「わが教会の大管長会、監督その評議会(管理監督会)およびわが高等評議員会員(十二使徒定員会)によりて構成する会議により、什分の一たる財産を処理すべき時は至れり。

「わたしの宮に食物のあるように、  
十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。  
これをもってわたしを試み、  
わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、  
あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、  
万軍の主は言われる。」(マラキ3:10)

また、これは彼らに告ぐるわが声によりて為さるべきなり。」

聖徒たちの捧げる尊い什分の一の使途については、主が大管長会、十二使徒定員会、管理監督会を導かれます。この会議は、什分の一支出評議会と呼ばれています。

ジョージ・アルバート・スミス大管長は、什分の一の処理について実に大事なことを教えています。彼は長い間会っていない少年時代の友をステーク部大会に招待しました。その人は経済界で名をなした人でした。大会から家に向かう車の中で、その人がスミス大管長に什分の一の納め方を尋ねました。大管長は、1万ドルの収入があれば1千ドルを什分の一用に銀行に預けると言いました。するとその人は、だれかがもっともな理由でお金を必要としたとき、自分ならその人に小切手を切って与えると言いました。「少しずつ1千ドルは減っていきます。だが、その1ドル1ドルは確かに有意義に使われているわけです。」そしてスミス大管長に、その方法をどう思うかと聞きました。

スミス大管長はこう返事しました。「他人の財産についてまことに気前のよい方ですね。あなたはご自分では什分の一を納めておられない。あなたが話したのは、主のお金で何かをしたということで、自分のお金は1銭も使っておられないわけです。主は世界一の同僚なのです。所有物はこの空気に至るまで全部主からのいただき物です。その主が、もらう物の10分の1を取って主の命じられるとおりに教会に納めよと言っておられるのです。それをしておられないでしょう。あなたのやり方では、最高の同僚のお金を取って、勝手に使っていることになります。」

それから1カ月ほどたって、街角で出会ったとき、その友が主に命じられたとおり什分の一を納めていることを知って、スミス大管長は安堵したのでした。(「インブループメント・エラ」1947年6月号、p.357参照)

### 什分の一の面接

年末に家族の一人一人は什分の一の面接を受け、什分の一を完全に納めているかどうかを告げます。監督や支部長は主に対する証人であり、私たちのその申し出を教会記録に記録します。それが正しいかどうかは、自分と主だけの知るところです。

什分の一の面接は監督にとって、什分の一を完全に納めている人だけでなく、少ない額しか納めていない人とも会って、この律法の大切さを教える良い機会です。

それぞれが正直に什分の一を納めて得られる祝福を証できるように、家族全員で面接に立ち会うのが一番良いと思います。

### 子供たちに教えること

たとえほんのわずかでも、子供のみんなに什分の一を納めてほしいと思います。両親が、捧げるほどの額ではないと考えているために什分の一を納めない子供がいます。十代になれば家計を助けなければならない子供もいるでしょう。また、自分のお金全部を服や遊びや車に使いたいという誘惑にかられる人もいるかもしれません。

伝道のための貯金をしているので什分の一を納めないという青年男女と面接をしたこともあります。教会に導かれてくる人々に、宣教師がみずから守ったことのない律法を教えることができるでしょ

うか。この律法を完全に守っていたらもっと確信をもって教えられるのではないのでしょうか。宣教師は伝道中に受け取るお金の什分の一は納めないで、帰還してから学費や家計の重みに負けて什分の一の律法を守らないままにしているということも考えられます。そういう人が大人になり、多額の収入を手にして、どうして什分の一を納めなければならないのかといふかることもあるでしょう。

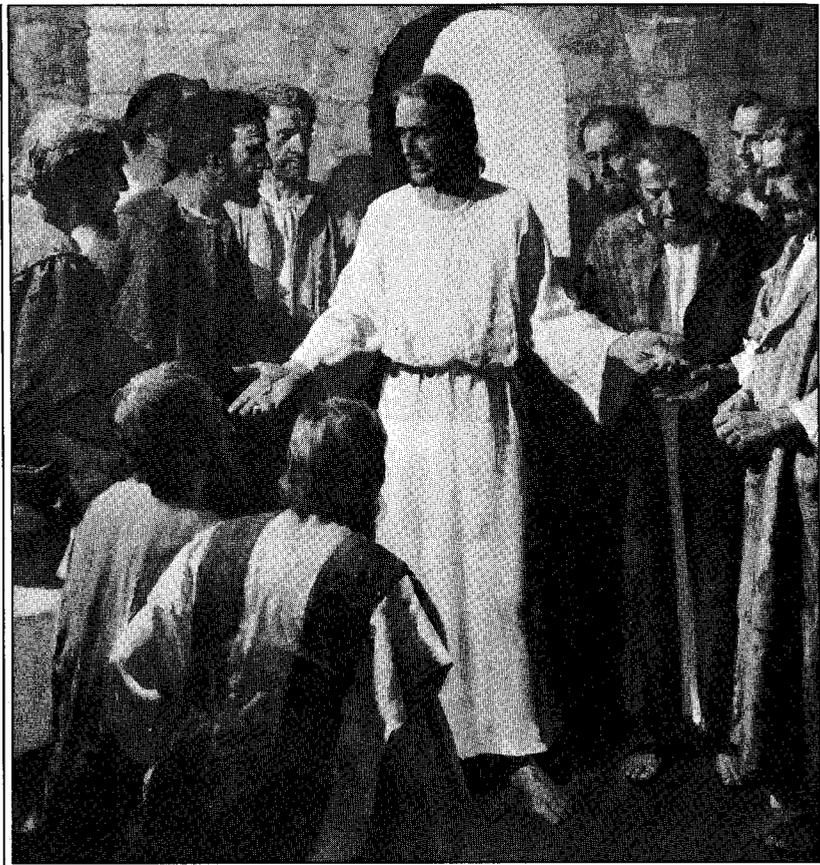
伝道部長をしている経験ですが、伝道を終えるとき、宣教師は例外なく神殿推薦状を得たいと望みます。その彼らに、神殿推薦状をもらうには、伝道から帰ったときに什分の一の律法を守らなければならないとしっかり教えるのがとても大事なことでした。什分の一が、自分の時間と才能とお金のすべてを必要に応じて、神の王国の建設のために捧げるという奉獻の律法の欠かせない一部であるということを知るの大切なことです。

什分の一を完全に納める機会を持たずに最後の安息の場へ行く人々が少ないようにと願います。私たちは、たとえば監督の面接や家庭の夕べ、補助組織のレッスン、聖餐会、ホームティーチングや家庭訪問の中で、什分の一の原則を子供たちに教えなければなりません。

### 天の祝福

私たちは、人の救いと霊の成長にとって什分の一の律法に従うことが必要であると教えています。聖徒たちが什分の一を完全に納めるとき、主は天の祝福をまたその民に注いでくださるのです。

(1986年4月4日総大会神権指導者会における話の編集記事)



ハリー・アンダーソン画「わたしの手や足を見なさい」

## 主エスよ、わが胸

希望や喜び、そして悔い改めの力は  
救い主への深い愛から生まれてくる。

トッド・A・ブリッチ

**12**世紀のシトー修道会のクレアヴォ  
クスバーナードは美しい祈りの  
讚美歌『主エスよ、わが胸』の中で次の  
ように歌っています。

主エスよわが胸 よろこび満つ  
み前に出づれば さらにうれし

主のとうときみ名 いとやさしく  
なによりも聖し 救い主よ

(讚美歌 145番)

ずっと以前に私は監督に聖任され、学

生ワード部を管理いたしました。監督と  
しての力と鍵が与えられたとき、私には  
イスラエルの判士としての責任が与えら  
れました。これは監督の責任のうちでも  
私が最初に一番不安を感じていた分野で  
したが、最も良い奉仕の場であることが  
すぐにわかりました。

判士として私は会員資格が問題となる  
ほどの罪を犯したワード部の会員の告白  
を聞く責任がありました。残念ながら会  
員からの告白はかなりありました。ある

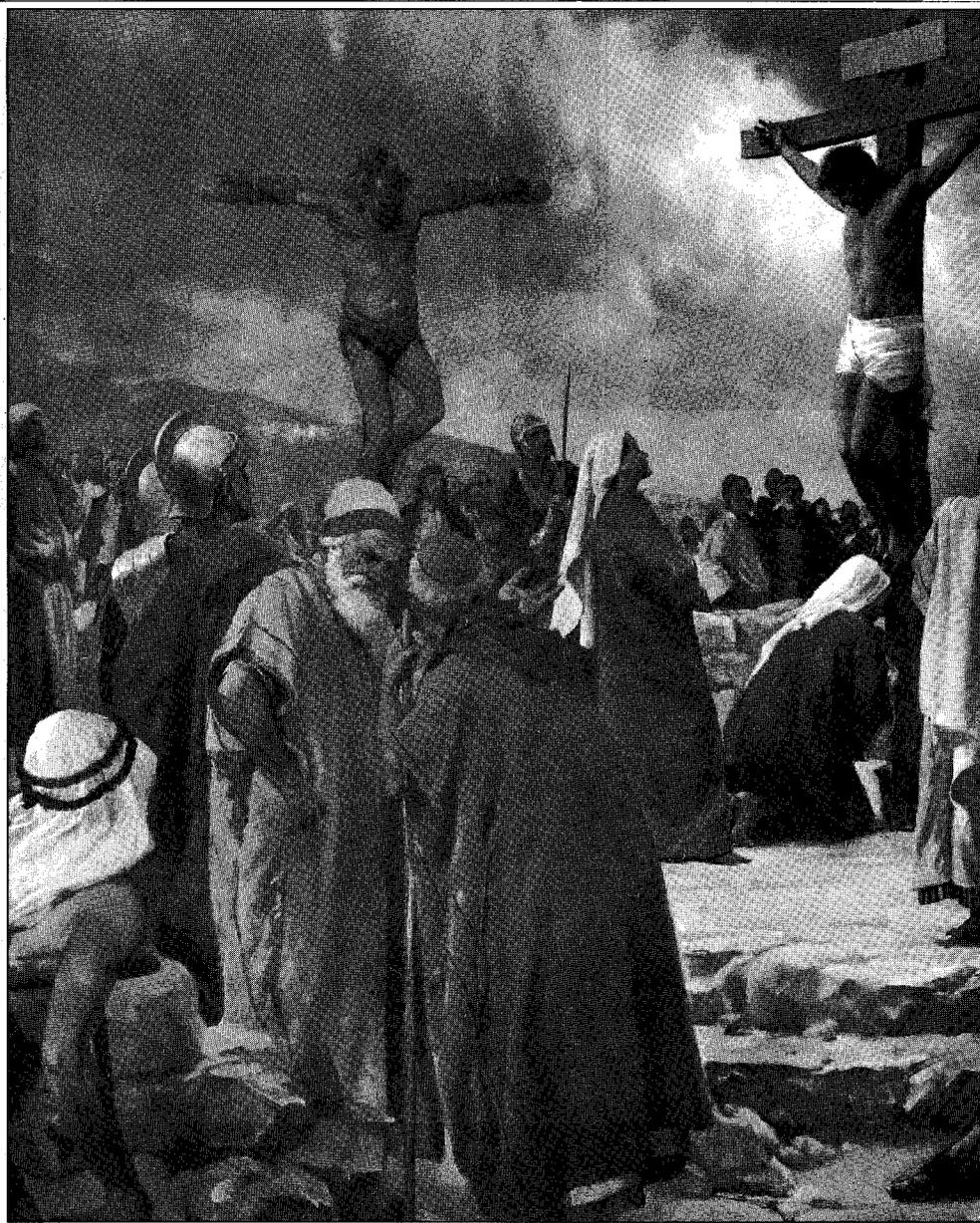
とき、私の友人のひとり「学生たちは  
問題が多いんですか」と質問してしま  
した。私は半分正直に、「問題はほんの2、  
3しかないんですが、頻度はかなりのも  
のですね」と答えました。しかし、私を  
悩ませたのはまさにこの「頻度」でした。  
ほとんどのワード部の会員たちは重大な  
罪を犯してはいなかったものの、何人か  
は監督と話し合っ問題解決したあと  
でさえも同じ過ちを繰り返していたから  
です。

## 罪を繰り返すこと

最初私はこの事実に当惑してしまいました。学生たちは勇気を奮って私の所にやって来て、罪を犯したことを認めます。生活を改めようとする彼らの願いは真剣でした。ある人たちは苦痛と悲しみにうちひしがれ、面接の終わりにはほとんどの人が涙を流しました。しかしそれでもその後何度か、ひどい人は1日か2日後に同じ罪を繰り返して前回以上の苦しみの中に告白に来る人がいるのです。

彼らと悔い改めの原則について話し合うと、彼らは一般的にかなりの知識を持っていることがわかります。ほとんどの人は悔い改めの段階について知っており、まず最初に自分自身を赦すべきことを強調しています。しかし彼らには明らかに何かが不足していました。彼らの悲しみは本物でしたが、何の変化も起きなかったからです。パウロは次のように語っています。「この世の悲しみは死をきたらせる」のであり、彼らに必要なのは「救いを得させる悔い改めに導く神のみこころに添うた悲しみである」と。(II コリント 7:10 参照)

私は新会員に信仰箇条の説明をしているときに自分のカウンセリングの方法が誤っていることに気づきました。私は福音の原則の第1番目の前に第2番目を問題にしていたのです。主イエス・キリストを信ずる信仰の前に悔い改めを置いていたのです。なんだ、そんなことかと思われるかもしれませんが、私自身と私がカウンセリングをしていた人たちにとっては重要なことだったのです。主イエス・キリストを信ずる信仰があり、それが悔い改めの前に存在してこそ、悔い改めが意味のある有益な原則になり得ることを私たちは改めて知ったのです。その



ハリー・アンダーソン画「十字架上のキリスト」

理由は明確です。私たちの不完全さのために、キリストの愛と恵みなくして私たちは自分の罪の代価を支払いきれないからです。

## 私たちは生活を完全に变えることができる

私たちは、キリストの愛と恵みなくして罪の代価を支払いきれないという事実を認めたときに、信仰を持ち始めます。そうして初めて主は、生活を本当に変える力を私たちに与えることができます。そしてこの信仰によって変わろうとする力を得ることができるのです。私た

ちがキリストの教えを実践するならば、キリストは罪の代価を取り除いてくださいます。その結果として、私たちは主に對する信仰と主の愛によって、長く正義を求め続けながら耐え忍んでいく力を得ることができるのです。救い主を拒むことから生じる苦痛を知っていた息子アルマは、主の憐れみについて次のように述べています。

「この御方はその民を縛る死の縄目を解くために甘んじて死を受けたまい、また肉体をもつ者として慈悲の心に富みたまひ、虚弱の度に応じてその民を救う方法を知るために民と同じく虚弱を受けた



「神の御子はその民の罪を負い、  
自分が贖う力によって  
民のとがあやまちを取り消すために  
肉体に苦痛を受けたもう。」  
(アルマ7：13)

らが各々その罪を赦されて心が清められるようになったまえ。われらは天地万物を造ってこの後人間に降臨したもう神の御子イエス・キリストを信じ奉る。」(モーサヤ4：2)

### 絶えず善を行なうこと

それから後、「主の『みたま』がかれらに下ってその心が喜びに満された」(モーサヤ4：3)ので、みたまが彼らの「心を非常に改めさせ、悪を行う性質をなくして常に善を行う望みを与えたもうた」(モーサヤ5：2)と彼らは証しました。

私自身もワード部の会員たちもできなかったのは、主が「あわれみをたれたまいてキリストの血による身代りの贖罪の効力により、私たちの罪の赦しが得られるよう」に主に願い求めることだったのです。私たちはただ死をもたらし世の悲しみを味わっただけでした。イエスが罪の代価をすでに支払っておられることに気づくと、イエスこそが私たちの心の望みとなります。それ以上に私たちは、イエスが罪に負ける人々に対して思いやりがおりになることに気づきます。私はイエスにこの思いやりがおりになることに気づくことこそ本質的なことだと思います。多くの場合、私たちは人を従順にさせようとするあまり、罪人にもたらされる罪のみを強調し、キリストから差し伸べられている憐れみの手を軽視することがあります。

### 罪悪の結果は苦しみである

私のひとりの友人がかつて苦々しい表情でこう言いました。「教会の法廷は罪を犯した人に対してあまりにも甘い判決を下している。」この友人は、罪悪とは快樂そのものであると誤解しているようであ

り、自分ができないでいることをほかの人がしていて、しかも明確な罰を受けていないことに腹を立てているようでした。彼は、「罪悪は決して幸福を生じたことはない」(アルマ41：10)ということや、罪悪が苦痛や悲しみそのものであることを忘れてしまっています。神は悲しみではなく喜びをもたらすために贖いをされたのです。「神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。」(ヨハネ3：17)

私は、悔い改めの前にイエスを信じる信仰を持てばすべての問題が解決できるとか、すべての誘惑に終止符が打てるとは思っていません。この末日に生きる偉大な聖徒たちは、最後まで耐える力を求めて熱心に祈ってきました。キリストは肉における神の独り子であり、ゲツセマネやゴルゴタの丘で私たちの罪を贖われ、死からよみがえってすべての死者に復活をもたらし、近代において救いの儀式を行なう権能を回復されました。イエス・キリストとその福音に対する信仰は私たちの生活を変える力を与えてくれます。その信仰こそ罪の責め苦を感じ、罪悪に束縛されているすべての人に希望を与える最初の段階なのです。

悔いる心には 望みを与え  
へりくだるものに よろこび与う

罪に苦しむ人に対する、希望や喜び、そして悔い改めの力は、救い主への深い愛から生まれてくるのです。

\*トッド・A・ブリッチ：プリガム・ヤング大学人文科学教授、ワード部大祭司グループリーダー

もう。

『みたま』はすべてのことを知りましたが、それでも神の御子はその民の罪を負い、自分が贖う力によって民のとがあやまちを取り消すために肉体に苦痛を受けたもう。これは私が心から証をすることである。」(アルマ7：12-13)

ベンジャミン王の時代の民の中には、キリストに対する信仰を持つことにより悔い改めの心が生じた人々がいたことが記録されています。彼らは自分たちの肉欲の有様を見て声高らかに叫びました。「ああ憐れみたまえ。キリストの血による身代りの贖罪の効力を及ぼして、われ

# 愛は命なり

スポンサー・W・キンボール、  
マハトマ・ガンジー、  
コリー・テン・ブーム、  
これらの人々は皆知っていました。

前中央扶助協会会長 バーバラ・B・スミス

●N・エルドン・タナー副管長  
は、ブラウン副管長の多大な成  
功はブラウン姉妹の愛の賜であ  
ると言っています。

「愛は命なり、命は不滅なり。」詩人エ  
ミリー・ディクソンはこう記して  
います。そして私たちも皆この思いが真  
実であると知っています。愛のない命は  
まったく真の命とは言えず、その本質は  
忍耐と沈滞です。しかし愛は命に生気  
を与えます。愛は感化力にあふれ、野火  
のように心から心へと広がっていきます。  
愛のあるところ、命は命を生じ、愛は愛  
を生みます。そしてそのすべてが混じり  
合うところに、不滅の性質が生まれるの  
です。

## 愛の物語

私の好きな真実の愛の物語をお聞かせ  
しましょう。私がこの話を知ったのは、  
話が十分進展してしまったあとからでし  
た。ある晩のこと、私と主人はある会社  
のディナー・パーティーへ出かけました。  
そこで私は夫人と共に出席していらした  
年配の男性の横に座りました。夫人の方  
に卒中の後遺症があるため、ご主人が彼



女の皿の肉を切り、食物を口に運ぶのを手伝っていました。彼の物腰はとてもやさしく、心配りもすばらしいものでした。彼が食事を終わったところで、私はこう話しかけました。「奥様にとてもおやさしいんですね。」

すると彼の返事はこうでした。「当然のことですよ。」それから彼はふたりの交際と、共に歩んできた人生を次のように語ってくれたのです。「私が彼女を初めて見たのは、カナダでのパーティーの席上でした。彼女は朗読をしていました。長い金髪を巻き毛にした彼女は、美しい白いドレスに愛らしい水色のサテンのベルトを飾っていました。私は彼女に強く心をひかれて、母に彼女こそ私が結婚したい女性であると話しました。母は笑いながら私の好きなようにさせてくれました。その後私は伝道に行き、帰ってきたら彼女はほかの人と婚約していました。その頃私は監督から特別な召しにつくようという要請を受けたのですが、気が進まずなかなか承諾しない私に監督がこう言いました。もし私がいつも主のみ業を第一にすれば、主が絶えず私を心にかけてくださることがわかるだろうということです。私はソルトレーク・シティーへの長い旅に出ました。それから私が家に戻ると、彼女の婚約は破談になっていました。私たちはデートを始め、そして結婚したのです。」

夫人の方はそのディナー・パーティー以後、公式の席にはめったにご主人と同伴しませんでした。その後間もなく彼女の容態は悪化して完全に寝たきりになり、話すこともできなくなってしまいました。彼は教会幹部でしたので、定期の大会に訪問して聖徒たちに勧告を与える責任がありました。そして家に帰ってくると必ず彼女に大会の話を開かせるのでした。ある日話を終えた彼は愚痴をこぼしてしまいました。「君が返事をしようとしなければ、ほくももう経験してきたことを話さないよ。もうほくのことを愛していないんだね。」すると彼女の目から涙があふれ、全身の力をふりしぼるかのようにやっとの思いで、「私はあなたを愛してい

るわ」という言葉を口にしたのです。それはとても困難で実に時間のかかることでしたが、彼女は必死に言葉を口に出したのです。彼は二度と再びふたりの愛を軽々しく扱わないと心に決めました。たとえ彼女の肉体が衰えようとも、ふたりの愛ははるかかなたまで一緒なのですから。

このすばらしい女性ジナ・カード・ブラウンの葬儀では、話者のだれもが皆彼女と最愛の夫ヒュー・B・ブラウン副管長の愛について語っていました。マリオン・G・ロムニー副管長はこう言われました。「どこにいても、彼女は愛にあふれた女性でした。」N・エルドン・タナー副管長は、ブラウン副管長の多大な成功は彼女の愛の賜であると言っています。またキンボール大管長は、ブラウン副管長と姉妹の愛があまりにも強いので、おふたりはやがて永遠に一緒にあられることであろうと言われました。彼女の愛はご主人を不死不滅のかなたへ、すなわち永遠の始まりへと引き上げたのです。

### 最も大切な戒め

聖典が語っているのはこの愛です。宇宙にあまねく広がり、天と地とを治めているのは永遠の命を与える力です。それは弱きを強きに変え、永遠から永遠にわたって私たちの行く手にのしかかってくる大きな困難を乗り越えて高めてくれる力なのです。

主イエス・キリストが地上での最後の務めを果たされたその週に、イエスを陥れようと企てるパリサイ人が3度も近寄ってきました。その中のひとり、律法学者はこう尋ねています。

「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。」

イエスは言われた、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、「自分を受するようになあなたの隣り人を愛せよ。」

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者が、かかっている。」(マタイ

22:36-40)

これはいつの神権時代にも与えられてきた同じ教えです。主はどの時代にもこの核心となる教えをその子らに幾度も繰り返されました。もし私たちに愛がなければ、どんなに知識や行ないがあろうとも無に等しいと言われたこともあります。また別のときに主はこうも言われました。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」(ヨハネ14:15)しかし絶えず主は、福音の真髄がまさに神と人を愛することであると強調しておられます。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13:35)

そしてこの真に人を愛するという問題は、国際関係の分野においてそれほど頻繁に努力がなされなければならず、国内情勢の分野になるとごくまれなことです。しかし数少ない中にも、非常に著名な出来事が私の心に浮かんできます。

マハトマ・ガンジーはインドを独立へ導いた人物です。そしてガンジーは、もう一方のほおを向けることや憎しみの行為に対して善をなすことが、人々にとって大きな力を放つことを知っていました。ひとりの回教徒がひどくあわてて彼のところへやって来ました。息子がヒンズー教徒に殺されたので、その報復としてヒンズー教徒の幼い少年の命を取ったというのです。悲嘆にくれた彼はガンジーに救いを求めてきました。そこでガンジーは、もしヒンズー教徒の中に孤児の少年を見つけたら自分の子供として育てるように、しかも回教徒としてではなく、ヒンズー教徒として育てるときにのみ慰めを見いだすことであろうと話して聞かせました。

愛には犠牲があり、犠牲は不滅をもたらします。ガンジー自身は実に多くの苦悩を抱えていましたが、究極的には何百万もの人々がより自由になりました。しかし銃弾が彼の命を縮めてしまいました。彼が生きていたら、新しい国家に対してどれほどの貢献をしたことだろうとだれしも考えたことでしょう。

## キンボール大管長の模範

私たちは愛する近代の予言者スペンサー・W・キンボールの生涯にたくさんの愛を見てきました。教会の予言者になるずっと以前から、愛は彼の人生の一部を占めていました。

ユタ州ローガンのステーキ部長は一冊の招待客名簿を保管していましたが、彼の死後その本は息子に譲られました。本のページを繰りながら、息はそこに記されている数多くの署名に感銘を受けました。教会幹部の大半がその本に署名している中で、彼の目に留まった記載は次のようなものでした。

氏名：スペンサー・W・キンボール  
長老

日付：1954年

役職：使徒

趣味：「人々を愛することです」

さらにページを進んでいくと、10年後にもかかわらずほとんど同じ署名が彼の

目に留まりました。

氏名：スペンサー・W・キンボール  
長老

日付：1964年

役職：使徒

趣味：「人々を愛することです」

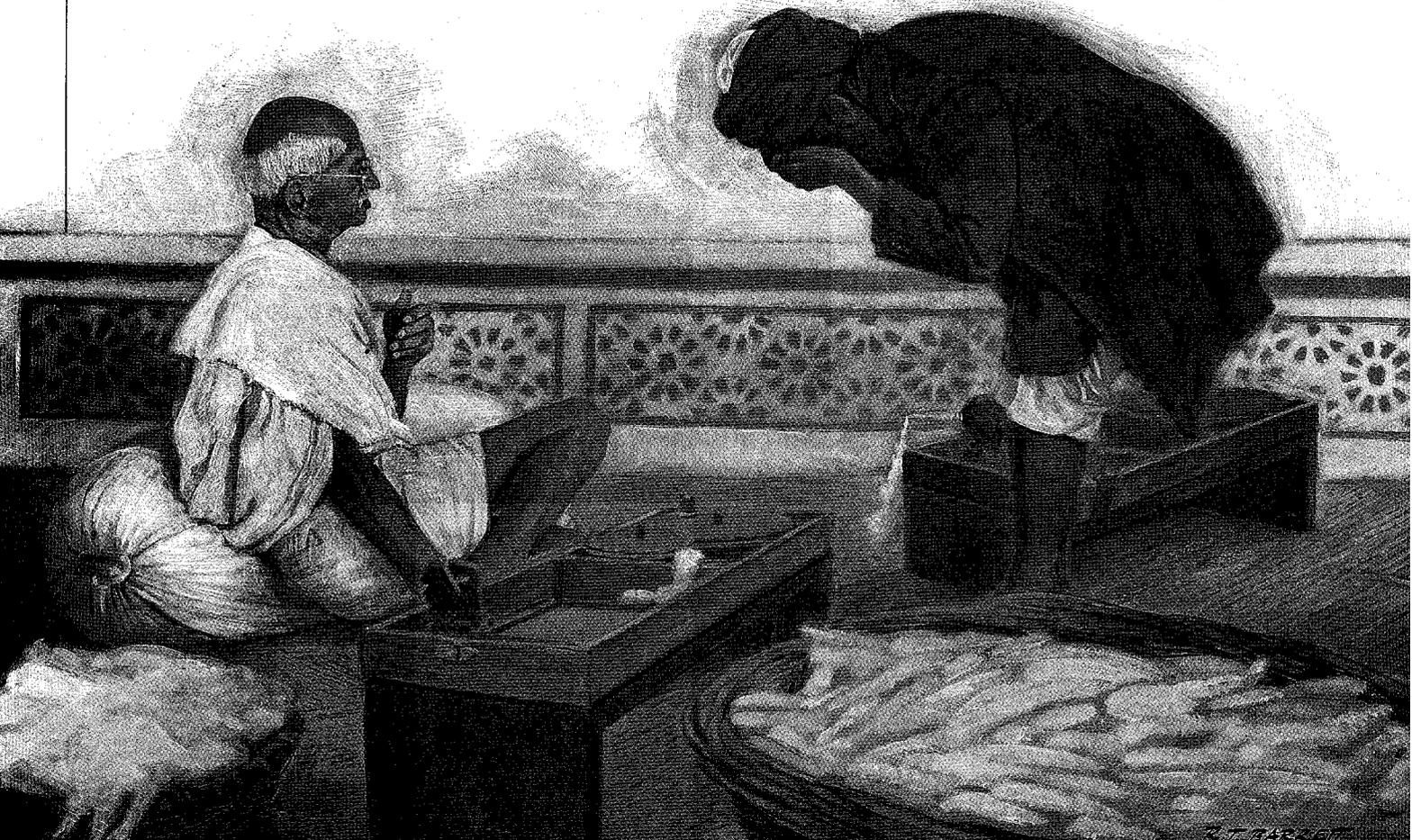
私たちは皆スペンサー・W・キンボール大管長を愛の人として知っています。彼は見えざる攻撃にさえも打ち勝つ方法として愛を考えていました。そのような出来事がキンボール大管長の隣人のひとりにも起こりました。この隣人は妻から戻るように言われるまで、キンボール大管長が庭にいるときは決まって外へ出ていき話しかけたそうです。ところが妻はこう注意したのです。「そんなことをしてはいけないわ。キンボール大管長がひとりになれるのは庭にいるときだけなのよ。そこへあなたが出て行っては彼のご迷惑よ。」それ以来隣人は家の中にいて、窓越しにキンボール大管長を眺めるだけにし

ました。

それからキンボール大管長が隣家の呼び鈴を鳴らして鍋料理を隣人に手渡した頃には、すでに数カ月が経過していました。「これは何のためですか。」隣人がそう尋ねると、キンボール大管長が答えました。「私にもわからないのですが、私が何かあなたの気にさわるようなことをしたのなら、是非おわびをしなければと思ってやって来ました。あなたがちっとも私のところへ来て話してくださらないので、きっと何か私が悪いことをしたに違いないと思ったのです。」

行って行なうようにと主が私たちの心にささやきかけておられること、そしてこの方法によってほかの人々の熱烈な祈りに答えられるということ、私たちにやさしく説いてくださったのはキンボール大管長でした。さらにキンボール大管長は、主が祈りに答えるのにこの方法を選ばれたのは、私たちが愛を与えること

●息子に先立たれた父親がマハトマ・ガンジーに慰めを求めたところ、返ってきたのは驚くべき助言でした。



を学ぶにはこの方法が最も効果的だとご存じだったからであると言いました。

最近私は、ふたりの家庭訪問教師が病弱な姉妹のために1年以上もの間、食料品の買物をすべてしてあげたという話を知りました。さらにその姉妹が毎日血圧を測らなければならないため、彼女たちはその仕事も喜んで引き受けたそうです。

別のワード部では、扶助協会の姉妹が組織してご主人が留守中の病気の姉妹を助けました。彼女はタイ人のため、英語の語学力が限られていました。また全身の器官が病気に冒されているため、姉妹たちは人口呼吸装置の操作を習いました。さらに病気の姉妹を入浴させ、髪をとかし、歯をみがき、家の掃除や食事の用意までしたのです。この姉妹が自分に奉仕してくれた人々の愛と忍耐に、涙ながらに感謝の言葉を口にするのを耳にしました。

世界に生命の存在をあらしめた愛は、イエスが私たちに教えたその愛です。それは結婚における生命、家族における生命、隣人関係における生命、地域社会や国家、世界における生命を創造します。私たちは主を愛し、主のみ言葉を信じ、不死不滅を愛し信じなければなりません。

### コリー・テン・ブーム

第二次世界大戦中に反ナチ闘争の地下組織で活躍した50歳の独身女性、コリー・テン・ブームの話は多分記憶にあることでしょう。そこで、極めて不遇なときにも、彼女の生涯において愛がどのように作用して善をなすに至ったか、ふたつの例を紹介したいと思います。

最初は、彼女がオランダにいたうら若き乙女の頃のことです。当時彼女は激しい恋をして、その恋が実ると思っていました。ところがある日、相手の若者が別の若い女性を伴って彼女の戸口を訪れました。彼は婚約者にコリーを紹介したかったのです。ふたりが帰ったあとで、彼女がこの窮地を直視できるようにと家族が集まってきて元気づけました。しかし、コリーは逃げるように寝室へ消え、そこに身体を横たえてむせび泣きました。彼女はそのときのことを次のように記して

います。「その後、父が階段を上がって来る足音が聞こえました。ほんのひとつき、私は幼い少女に戻って父が毛布をしっかりと巻きつけてくれるのを待っているのです。しかし今回はどんな毛布もさえないことのできない心の痛手でした。それを思ったとたん、父が何と言い出すか恐ろしくなりました。もちろん父は間違ったことや無益な言葉は口に出しませんでしたが、そのかわりこう言いました。

『コリー、何がそんなにひどく傷つけたのか君にはわかるかい。それは愛だよ。愛は世界中で一番力強いために、それがふさがれてしまうと苦痛になるというわけだ。』

こうなったときに私たちにできることはふたつあると思うよ。傷口をふさぐために愛を殺すこともできる。しかしそうすれば、当然私たちのある部分も死ぬことになる。あるいはコリー、その愛が旅立てるように、別の道を開けてくださるよう天父にお願いすることもできるね。コリー、私たちが昔から人がやってきた方法で愛することができないときはいつも、神は完全な方法を私たちに示しくださるのだよ。』

戦時中にナチの捕虜収容所で恐ろしい経験をした彼女は、後年になってナチの親衛隊の護衛とばったり顔を合わせています。

「私が彼を見たのはミュンヘンの教会の礼拝でのことでした。元親衛隊員のこの男は、かつてラーベンスブルクの強制収容所で死体処理場のシャワー室の入口に立って警備していたのです。あの当時の看守たちの中で私が最初に見かけたのが彼でした。そして不意にすべてのものがよみがえってきました。部屋中であざけり笑う男たち、衣類の山、妹のベツィーの苦痛に青ざめた顔。

教会に人気なくなると、彼は私の方に歩いて来て会釈をし、ほほ笑みながら言いました。『お嬢さん、あなたのお話は本当にうれしかったですよ。あなたがおっしゃったように、主が私の罪を洗い清めてくださったのですね。』

彼の手が私の手を握ろうと強く差し出されました。しかし、ブローメンダール

の人々に赦しの必要性についてたびたび説教していた私の方は、手を脇につけたままでした。

怒りと恨みではらわたが煮えくり返る思いさえしながら、私はその人ではなく、その人が犯した罪を見るようにしました。イエス・キリストはこの男のために死なれたのです。私はこれ以上まだ何かを望もうとしているのでしょうか。私は祈りました。主イエスよ、私を赦してください。そして私が彼を赦せるように助けてください。

私は何とか笑おうとしました。必死で手を上げようとしていました。でも私にはできませんでした。私は何も感じませんでした。温かい心と慈悲のかすかな光すら感じませんでした。そこでもう一度静かに祈りを捧げました。イエスさま、私は彼を赦すことができません。私にあなたの赦しの力をお与えください。

私が彼の手を取ると信じられないことが起こりました。私の肩から腕へ、さらに手を通して彼の方に電流が流れたような気がしました。すると同時に、あたかも何もなかったかのようにその人への愛が、圧倒されるほどの強さで私の心にわきあがりました。

そして私には、世の癒しがもはや私たちの赦しや良心の問題ではなく主にゆだねられているものであることがわかりました。私たちの敵を愛するように言われるとき、主は命命とともに愛そのものをくださっているのです。(コリー・テン・ブーム「隠れ場所」pp.44-45, 238)

愛は命です。すなわち人の霊を新たにし、世に新しい命をもたらす力であり、不死不滅を待ち望む心をもたらす命です。

私たち一人一人が、この愛を大いなる強い力と考えることができますように。そして愛についての教えを文字どおり受け取り、また愛を与える技術を習得するよう努め励むことができますように。愛は私たちが世を新たにするための力です。「愛は命なり、命は不滅なり。」

(1984年2月14日のブリガム・ヤング大学での説教より抜粋)

# はちみつとすばらしい一致

キャサリン・ルーベック

## 福音を分かち合うために、 ユニークな方法を見いだした カナダの青少年の話

**福**音の光を世に広めるために、若者たちにできることをすべてあげてみるとしたら、まず、リストの最初に載せるのは宣教師になって伝道に出るということでしょう。それから家族の立派な一員になる、教会での召しを立派に果たすといったようなことが続くと思います。では、みつばちの巣箱から蜜を集めるというのはどうでしょう。また、歌うという才能を生かすのはどうでしょうか。ここカナダのケベック州から、主に仕えるために、自分たちの持てる才能を上手に生かしている末日聖徒の若者たちの話を紹介しましょう。

### 資金作りのためのはちみつ

粘り気のあるどろっとした甘味の強い金色のはちみつを、カナダのフランス語を話す地域では「ル・ミエル」と呼んでいます。青い矢車菊や紫色のあざみ、淡い白色の花々が点在するカナダの田舎に行くと、緑の畑の中に、箱の形をしたみつばちの巣が見えてきます。

モントリオールから50キロほど離れたその同じ田舎のセント・ブリジッド・ディベルヴィーユという所は、とうもろこし畑が広がり、家畜小屋やサイロが立ち並ぶ町です。ここに、青や白の巣箱からはちみつを集めている十代の末日聖徒の少年たちがいます。

はちみつを集め、加工し、処理する仕事に携わる彼らの一日の手間賃は、バケツ一杯のはちみつです。確かにべとつく給料ですが、彼らはこれを有効に使っています。ルモワイヤンワード部のほかの

若者たちの助けを借りながら、彼らはそのはちみつを容器に詰めて売り、その売り上げを、間近に予定されているワシントンD.C.までの旅の費用に充てるつもりなのです。なにしろ、ワシントンD.C.までは車で12時間もかかるのですから……。彼らは、ツアーや観光のためにアメリカの首都に行こうとしているわけではありません。死者のためのバプテスマを受けるために神殿に入る計画を立てているのです。モントリオールは、位置的にもワシントン神殿の区域なのです。

「神殿に行く日をとても楽しみにしています。」ルモワイヤンワード部の14歳のサミュエル・マルテルはこう言っています。「これなら、神殿行きのお金を両親にせがむ必要がありませんからね。はちみつ集めの仕事はべとつくし、汚れて大変だけど、やりがいがあります。それにはちみつがどんなふうにしてほくたちのテーブルに届くかがわかってからは、ありがたい味が一層増しました。」

この若者たちは、どのようにしてこのはちみつ集めの仕事をするようになったのでしょうか。

それは、ジョセフ・ウィルフレッド・セルジュ・リモージュ監督が、ワード部の十代の人々に神殿訪問のことを話したことから始まりました。「みんな神殿に行きたがったのですが、金銭的に準備のできている人がひとりもいなかったのです。」リモージュ監督はそのときのことを思い返してこう語っています。はちみつの仕事をしているワード部の書記が、人手を求めている養蜂家のマルコットさん

を知っていたのです。そして監督が若者たちと面接したところ、全員がこの計画に賛成したのです。

マルコットさんは、ワード部の少年たちにはちみつの集め方や加工の仕方を教えてくれました。「はちと一緒に働くのは楽しいけど刺されるのがいやだな。」マルク・ペルシャは言っています。

この少年たちが手間賃としてもらったはちみつの入ったバケツを家に持ち帰ると、ワード部のほかの若者たちがこのべとべとしたみつを小さな容器に詰めかえてくれるのです。そして彼らはそれを友達に売ったり、モントリオールで健康食品を扱っている教会員の店頭で販売させてもらったりするのです。

「きょうは店先で6時間も売ったんです。神殿に行くつもりなら、それなりの努力をしないとだめだと思うんです。」こう言っているのは16歳のフィリペ・カゾーです。

神殿訪問は、若者たちの大好きな行事です。「ぼくたちは、教会のことを知らないで亡くなった人々のためにバプテスマをしたいんです。」15歳のソーニャ・ロイはこう言っています。

彼らはまた、はちみつを買ってくれる人々に教会のことも紹介しています。「みつを買いに立ち寄ってくれる人々に、神殿訪問の資金作りをしていることを話さんです。そして神殿の写真を見せて、神殿がぼくたちにとってどんな意味があるかを説明するんです。」17歳のフランキー・ペロットはこう話しています。

慣れないながらも、積極的に仕事に取

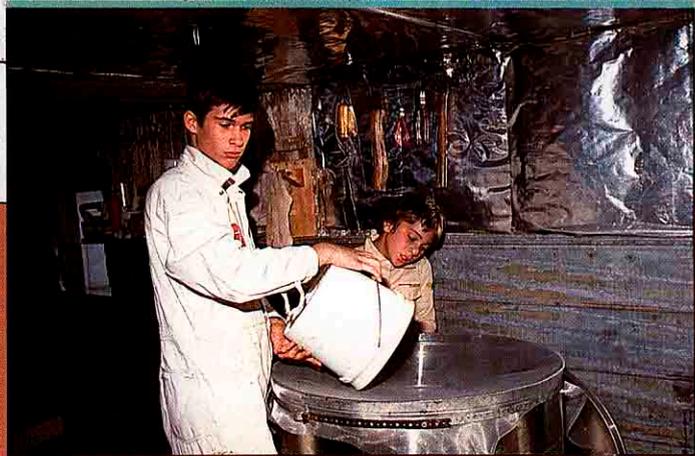
り組むルモワイヤンワード部の若者たちは、生者、死者を問わず福音を分かち合うことによりもたらされるすばらしい報いを身に受けているのです。

### 私たちの歌

ステーキ部内で、「歌うルゴーシスターズ」として知られている16歳のシャンタル、18歳のナタリーは、ふたりでもう何年もすばらしい歌を歌ってきました。もともと歌が好きなおもありますが、ふたりは歌を通して福音に対する愛を分かち合っているのです。

シャンタルとナタリーがステーキ部の人々に披露した3年前のショーのことは、今なおステーキ部の語り草となっています。それは、シャンタルが末日聖徒の若者たちで構成されたバンドに入ることを勧められたことから始まりました。その後間もなくナタリーもこのバンドに加わったのです。「私たちは夏の間ずっと、1日5時間練習を重ね、当日ステーキ部で3時間のショーを披露しました。みんなにとっても喜んでくれました。」シャンタルはこう話しています。

ナタリーが音楽を好きになったのは、まだ小さいときでした。10歳のとき、歌の指揮をしてみたかった彼女は、ワード部の音楽指揮者に指揮の仕方を教



えてくれるよう頼んだのです。そして11歳になったナタリーは、初等協会の音楽指揮者に召されました。現在彼女は、若い女性のキャンプ指導者、日曜学校の書記、それにワード部聖歌隊の隊長をしています。妹の方は、若い女性の音楽指揮者のほかに、ワード部聖歌隊の隊員、若い女性のクラス会長の責任を受けています。

ふたりとも楽しみのために歌っているのですが、シャンタルはプロを目指しています。「私も音楽は大好きですが、シャンタルの方は音楽を熱愛しているんです。」ナタリーはこう話しています。

昨年、シャンタルは有名な「ガラ」コンサートのオーディションを受けました。これは報道陣も集まり、モンリオールの最優秀新人タレントを人々に紹介する大きなコンサートです。シャンタルは見事オーディションにパスし、コンサートで歌声を披露するチャンスを手に入れました。しかし、それが日曜日に行なわれることを知った彼女は、コンサートを辞退したのです。

「そのことで私は断食しました。」シャンタルはこう思い返しています。「本当は、ガラのコンサートでとても歌いたかったんです。でも、行かないようにというみたまの勧めを聞いたら、皆さんもそれに従うでしょう。ですから私も従った

んです。大切なのは、実に天父が私たちにしてほしいと望んでおられることをすることです。みたまの導きに従ったからこそ、今こうしていろいろな機会に恵まれているんだと思います。」

その数々の機会の中で、彼女は昨年、教会で出しているセミナーのフィルムの中で歌うという経験をしました。シャンタルとナタリーのふたりは、フィルムをフランス語に訳す手伝いを頼まれていたのです。ところが、シャンタルが歌を歌えることをプロデューサーに話したため、フィルム用の歌を数曲吹き込むことになったのです。こうしてスタジオに入り、イヤホーンをつけてすばらしい歌声をレコーディングした彼女は、すべての人を驚かせることになりました。専門家にプロの才能があると賞賛されたことは、彼女にとって大きな励ましとなりました。

「プロの歌手になったとしても、私は神様のことを第一にしたいと思っています。私にとって歌うことは伝道ですから。」

ふたりにとって、モンリオールの学校に通うことはちょっとしたチャレンジです。なぜなら、生徒数1,500人のその学校に、末日聖徒は彼女たちしかいないからです。「困るのは、みんなが私たちの教えを理解してくれていないことです。」シャンタルが言っています。「友達に私たちの信じている宗教が知れると、彼らは家の人から、もう私たちとはつき合わないようになって言われるんだそうです。でも私たちは、模範が何よりもいい伝道になるということがわかりました。」

ナタリーも同じ気持ちです。「教会に行くために地下鉄に乗るときも、周りの人は私たちがきちんとした服装で歩いているのを見て、ほかの若者たちと同じじゃないと思うらしいんです。私たちには何かほかの人と違うところがあるみたいです。」

「去年、数学の先生に、卒業記念アルバムに何か書いてくれるよう頼んだんです。そしたらこんなふうに書いてくれました。『1年前は廊下で見かけても、君のことをよく知らなかった。でも君の人柄のすばらしさがわかって、今年は是非私のクラスになってほしいと思った……。』私にとって、これは伝道なんです。」シャンタルも同じような経験をしています。

ルゴー家は、10年前に宣教師からもらった1枚のパンフレットで教会に改宗しています。宣教師の訪問を受けたとき、ナタリーはまだ8歳でしたが、彼女は自分から進んで勉強し、教会が真実であることを知りました。「9歳になったとき、私は教会が真実であるということがわかりました。」ナタリーはこう言っています。「親戚の人たちからは、親が改宗したから子供たちも教会に行っているだけだと言われたけれど、私はそうじゃないんだって言いました。私には教会が真実であるってわかるんです。私は、自分の意志で教会に入ったんです。私は若い人たちに對して、友人や家族の証ではなく、自分自身の証を持つようになっていつも言っているんです。」

福音を知らなかった頃の生活を振り返り、ナタリーはこう言っています。「生まれながらに教会員だった人には、教会員であるということの価値があまりわからないと思います。福音を知らなかった頃に比べ、今私たちの家には確かに主のみたまがあります。私は自分のすることすべてについて主に祈ります。すると必ず主のみたまの導きがあるんです。本当にすばらしいことです。」

ルゴー家は全員、常にみたまに近くあるように生活しています。ルゴー兄弟が、福音を分かち合える人を主に求めて祈ったときも、そのすぐあとで、ハイウエーからわき道に入ってガソリンスタンドで止まるよう導きを受けたことがありました。もちろん、ガソリンが切れていたわけではありません。スタンドには、オートバイを運転してきて、疲れのために休んでいる若者がいました。ルゴー兄弟は、その若者のオートバイを自分のバンに乗せるよう勧め、若者をモンリオールまで乗せて行ってあげたのです。

若者は受けた親切に感動し、ルゴー家族のことをもっとよく知りたいと思うようになりました。またそのような親切心がどこから来るのかを知りたいと思いました。こうして彼は宣教師のレッスンを受けるようになったのです。ルゴー家の人々は皆、その若者が証を得ることができるよう祈りました。数週間後、彼はバプテスマを受け、教会に入ったのです。

「このようなことがあると、私たちは家族みんなで協力し合います。」こう語る



のはシャンタルです。「私たちはみんなで、若者が真理に耳を傾けるように祈りました。私たち家族は、みんなで福音を分かち合っているんです。

私たちは天父に『天父の望まれることをします。天父の望まれることを私にさせてください』と祈るんです。」ナタリーはこう話しています。「天父は、私たちをお願いすれば素晴らしいことをしてくださるんですから。」

編集者から：はちみつを集め、売るという仕事を通して、ルモワイヤンワード部の若者たちは共に協力し合い、福音を分かち合っています。また、ルゴースターズは、音楽を通して同じ目的のために協力しています。皆さんのワード部、ステーキ部（支部、地方部）では、若者たちがグループとして、あるいは個人で何かプログラムを行なっていますか。私たちは、この「はちみつと素晴らしい一致」のような記事を求めています。是非、下記のあて先までお送りください。

Articles Editor, International Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

記事はなるべくタイプして送ってください。住所、氏名、ワード部、ステーキ部名も忘れずに書き添えてください。また白黒、カラーを問いませんが、イラスト用の適当な写真も同封していただければ幸いです。



**救** 急車が急いで走って行くときのあのけたたましいサイレンの音には、いつも胸がドキドキしたのを覚えています。病気やけがをした人たちを救うために駆けつけるあの車のハンドルを握れたらと、どんなに願ったことでしょう。成長するにつれて私の夢は現実味を帯びていきました。そしてその夢を実現するべく、私は応急手当のクラスから始まって人間科学のクラス、最後に救急医療技術者訓練コースを専攻していきました。

私が個人の救急輸送会社で救急車の乗務員として最初の仕事に就いたのは、高校を卒業したばかりのときでした。そんな若さにもかかわらずいろいろな機会に恵まれて、私の救急医療処置の知識は、この時期に急速な進歩を遂げたと思います。多くの人はずっとあとにならないと学べないような生命に関する様々なことを学びました。それと同時に、以前には知らなかった多くの試練や誘惑にも遭ったわけです。

私の職場は末日聖徒の環境とは違っていました。教会の指導者が絶えず警告していたような環境でしたが、当時の私はそんなに心配することもないと考えていました。しかし実際は仕事と教会への出席とは歯車がかみ合わなくなり始めていました。自分自身でも問題を感じ始め、将来のことが心配になることもたびたびでした。自分なりに高度な医療の分野に進みつつあると自負してきたわけで、前途に立ちふさがるものもないと思っていたのです。そして、19歳の誕生日にカリフォルニア行きを決め、病院の救急医療技術者プログラムに応募しました。合格した私は、秋からの学期を受講することができました。そこでの経験はまさに私が望んでいたものでした。

そして自分でも思いがけないことに、伝道に出るという考えは私の心から消え失せていました。それ

はまるで伝道に行かないという決心がすでにできてしまったようなものでした。友人や家族には絶対に行くといつも言っていたのです。社長にさえ、伝道に行く計画を打ち明けていたほどでした。しかし今ではもうそれほど重要なことには思いませんでした。自分が満足できるものしか眼中になく、いかなる霊的成長の機会を失うのかさえも気にならなかったのです。しかし予言者の声はまだ私の心に響いていました。「すべての若人は伝道の業を果たすべ



人の  
大の  
に値  
なり

ポール・B・サーグット



きである。」それでもやっぱり次の考えに行きついてしまうのでした。「2年もしたら、救急医療技術者への道がどんなに遠のくことか。」

## 私はこの世的な欲に目がくらんでいました

私には何をなすべきかがわかっていませんでした。心の奥底では伝道が正しいことだと知っていましたが、この世的な欲に目がくらんでいたのです。行くか行かないかの決定は絶えず私の心にあったと思います。目覚めたときから夜寝るときまでそれについて考えていました。24時間の交替勤務でしたから、考える時間はたっぷりあったわけです。

ある晩のこと、寝入ったばかりの私は電話のベルに起こされました。それは高速道路での乗用車とトラックの事故のために、交通警察隊から救急車の出動を要請する電話でした。私はすぐに2台の車の事故現場に急行しました。その事故は、小型車が木製の塀用の柱を積んでいた大型トラックの後部に衝突したものでした。めっちゃめっちゃになった車には、最近結婚したばかりの夫婦が乗っていました。そして運転していた夫は即死で、妻の方は重傷を負っていました。その19歳になる美しい女性の次第に消え入りそうな生命を救うため、私たちは必死に働きました。こんなすてきな夫婦にどうしてそんな恐ろしいことが起こるのか。どうして将来の計画や幸福までも根こそぎ壊してしまうのだろうか。私はそんな思いにとらわれていました。

私たちは彼女を急いで病院へ送りました。そこでは高度な訓練を受けた医師団や看護婦が待っているのです。やがて彼女をソルトレーク・シティーの病院へ送

るためにヘリコプターが到着しました。そこへ行けば、彼女は頭に受けた重い傷に対して特別な治療を受けることができるのです。

その恐ろしい事故の衝撃から落ち着きを取り戻すと、私は親族に事故のことを知らせる責任のあった交通警察隊員と話したときのことを思い出していました。彼が運転しながら見せた厳粛な表情と目に浮かべていた涙を決して忘れることはないでしょう。なんてむごい仕事かと思いました。知らされるのが私の両親だったらどうでしょう。そのとき次のような思いが心に浮かんできました。救い主にこの現世で過ごした期間の報告をするときに、私は一体どんな表情をするのでしょうか。

晩霜のせいで、夜の空気は冷え込んでいました。夜空を眺めると、一面の静寂が漂っていました。涙が止めどなくほおを伝い、気がつくときあの若い婦人の生命を助けてくださるよう主に嘆願している自分の姿がありました。その瞬間、私の心は苦しいほどに愛と憐れみにあふれ、そしてとうとうわかり始めたのです。医師も看護婦も救急医療技術者も確かにすばらしいでしょうが、肉体の治療をするにすぎません。彼らにはもっと深い傷、つまり私たちが御父のみもとへ帰るのを妨げる傷を癒すことはできないのです。それができる医者たったひとりしかいらっしやいませ。しかも私はそのお方の助け手になることを拒んでいました。私は偉大なる癒し人のみ業を進めるために、できることはすべてやろうと決心しました。伝道の業に働こうと決めたのです。

## 私の祈りは答えられました

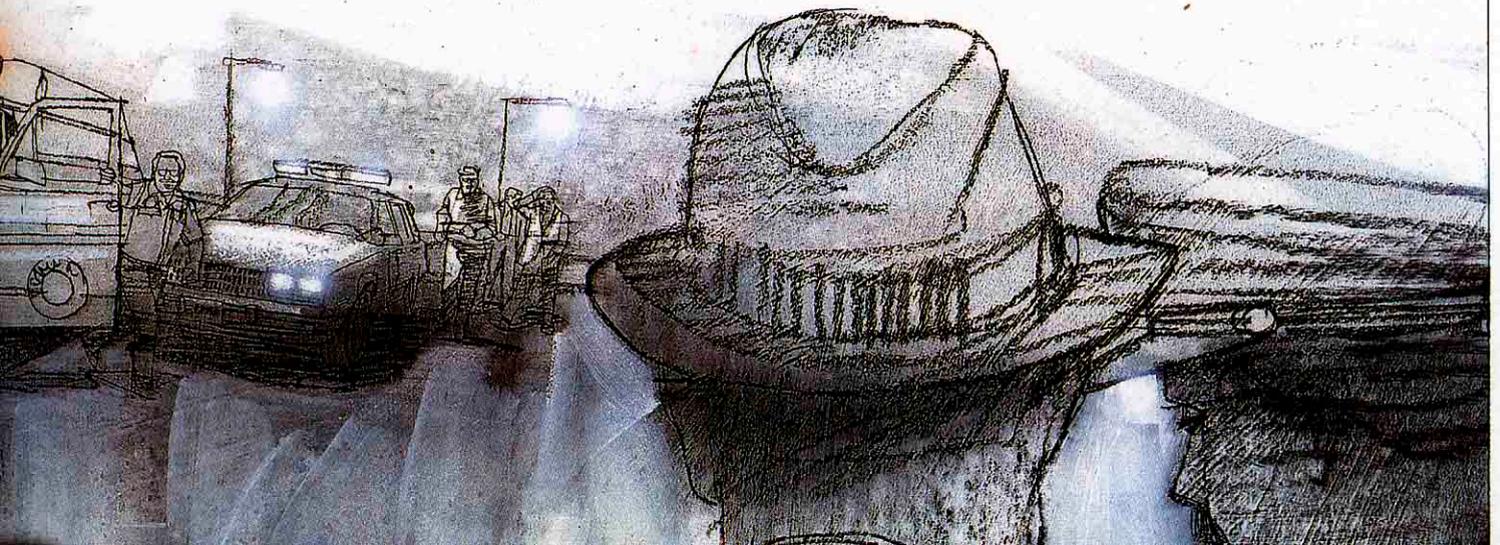
数日が過ぎていきました。やがて1カ

月後、私は祈りが答えられたことを知りました。あの若い婦人は完全に快復して退院したのです。私はその答えを永遠の御父にどれほど感謝したことでしょう。そして今やすべてのうちで最も大いなる一歩、すなわち伝道への一歩を踏み出すときがきたのです。

祈りを捧げ、みずからを備えるときに、みたまは私が伝道に出て天父に仕えるべきであると確かに告げるのでした。そしてステーキ部の祝福師の口から同じ祝福の言葉が宣言されるときに味わった、静かで心地よい気持ちを生涯忘れられないと思います。同じように、ペンシルベニア州ハリスバーグ伝道部に働くようにという、神の予言者からの召しの手紙を開けたときの気持ちも決して忘れられません。それはイエス・キリストの代理人としてペンシルベニアで働いているときにも同じで、私は正しい選択をしたのだという特別に平安な気持ちを味わいました。

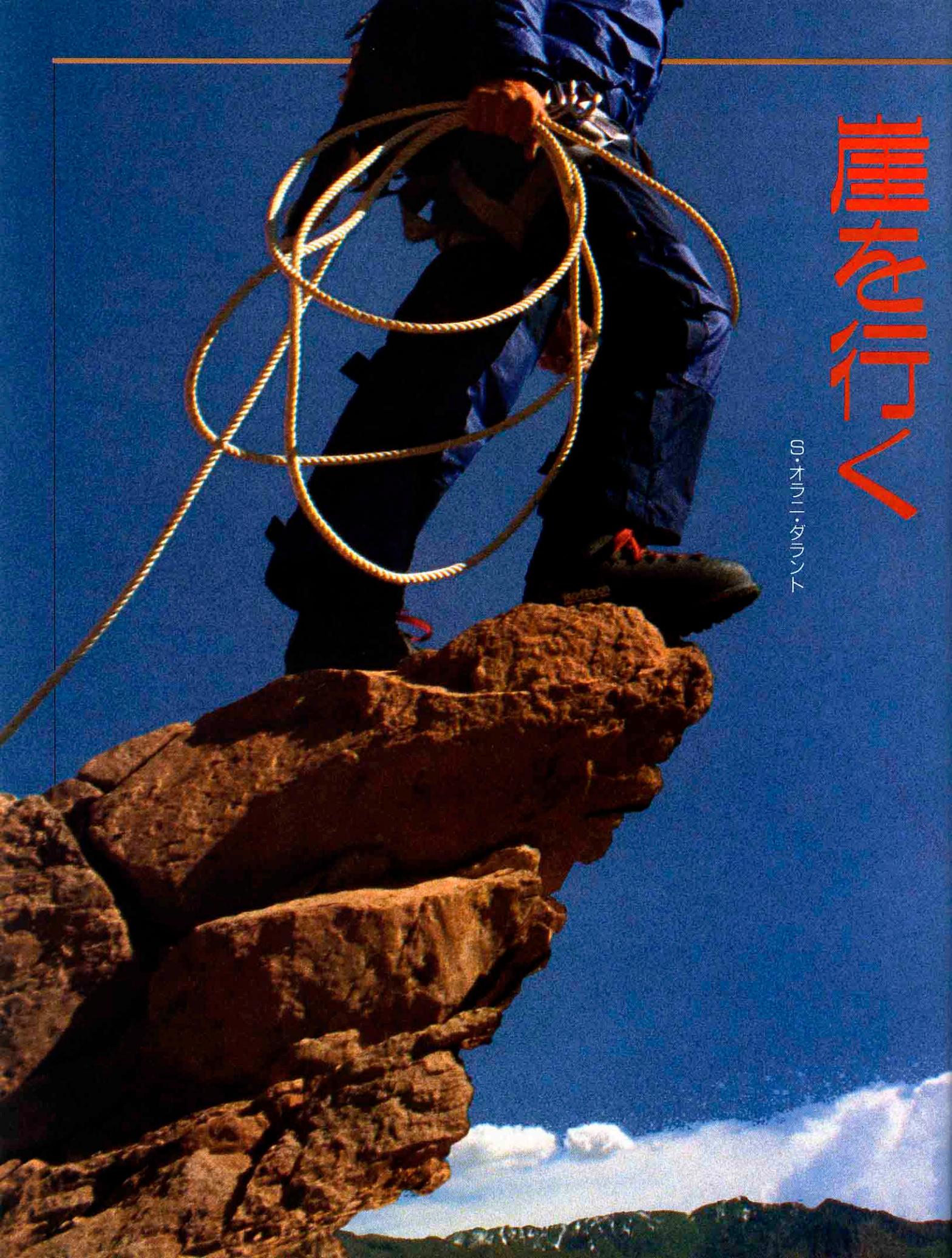
伝道に出る前の私は、人の助けでだれかが新たな人生を歩み始めるようなことがこの世の中にあるなんて、想像もしませんでした。しかし私の考えは間違っていました。だれかのために、イエス・キリストの福音に見られる真の喜びと幸福を探す手伝いをしていると思えること、これ以上の気持ちはこの世にないのです。

私はこの教会が真実であることを心から知っています。神が生きておられ、祈りに答えてくださることを知っています。イエスがキリストであられ、末日聖徒イエス・キリスト教会が地上における主の教会であることを知っています。私の伝道は、いかに救急車が走りまわってもなし得なかった方法で、これらの事実を私の心に刻み込んでくれました。



# 崖を歩く

山・アウトドア・タレント



しばらく前に私が見た1枚の写真は実に雄壮なものでした。目にも壮観なアルプスの山並を背にした登山家の写真で、四方には数千メートル級の険しい山々が谷からそびえ立っていました。写真の中の登山家は非常に高い鋭く切り立った崖淵に立っているのです。

私はこの写真を見て思わずドキッとしました。私は高い所が苦手で、3メートル以上の高さになると目まいがしてしまうのです。しかしこの登山家はつま先を崖の淵からはみ出さんばかりにして立っていました。自己の世界の崖淵でバランスを取っている彼の胸中を察すれば、その興奮は実に大いなるものだったことでしょう。しかしある種の危険も感じていたと思います。現実には死と向かい合っているのですから。

一般社会では、次のふたつの方法のうちのどちらかで、こういった崖を歩く人々を危険から守るようです。つまり崖の頂上に柵を設けるか、下に救急車を用意しておくかです。第1の方法は落下を防ぐものであり、2番目の方法は落下の結果に対処しようとするものです。

明らかに柵の方が解決策としてはすぐれていると思いますが、スリルを味わうのが好きで崖淵を歩く人には、柵はせっかくの経験を台無しにしてしまうかもしれません。

私はここで崖とこの人生の誘惑を比較したいと思います。崖からの眺めがそこを歩く人をもっと淵の近くへ引き寄せるのにも似て、サタンのつくり話は私たちを周到に用意した底無しの淵へと近づけようと誘惑します。

私たちが人生の旅路を行くときも、サタンは私たちを崖淵へ近づけようと必死で誘惑してきます。淵をのぞきこむ機会を提供してくれるわけです。もし私たちが好奇心旺盛だったり、あるいは向こうみずで愚かだと、淵のどこまで近づけるか試してみたくなるかもしれません。そして鉄の棒にかろうじて指先が触れるくらいまで、握っていた手をゆるめていくのです。そこで用心しないと、かすかな声を立てる間もなく崖から足をすべらせてしまいます。しかしよろめきながらもずっと崖に立っていることができると、危険すれすれだとわかっているにもかかわらず、コントロールできるとうぬぼれてしまうのです。

サタンは私たちを手に入れるためには、酒やたばこ、麻薬、

富や権力への欲望、不正直、肉欲と、手段を選んではいません。サタンの狡猾さはかなりのものです。手近なものは何でも利用します。

### 彼はお酒を断われなかった

私の友人で、年若いときにアルコールを断られない人がいました。ところがアルコールは彼にとって特別に有害だったらしく、中毒になってしまいました。それは彼の家族に悲惨な結果をもたらし、彼自身も病気を克服するために何年間も苦しい闘いを続けました。幸い病気を克服して、人を助ける余裕すら出てきましたが、あの若き日の家族との歳月は失われて、二度と再び取り戻すことはできないのです。しかも教会からも離れてしまいました。それらすべての徴候は、かつての飲酒が彼から永遠の家族までも奪ってしまったことを物語っています。

私の記憶にある若いカップルは、ふたりきりのデートで節度ある行動を取るのに大分苦勞していました。彼らは純潔を失うのではないかと心配して、自制心を働かせようと決心しました。しかしそれからデートが続き、とうとうふたりきりで人目を避けてデートをするようになりました。それはまさに崖淵を歩くようなものでした。何度も同じ行動を取ってしまうふたりは、打ち勝つ力を求めて祈りもしました。日の光のもとで行なう健全なことよりも、危険でしかもスリルいっぱいのパettingの方が魅力的だったようです。でも、一度は崖淵まで行ったふたりですが、すぐに引き返してきました。

幸いにも少女の方が、それまでの行動を改める決意が自分たちには欠けていたことに気づいて、デートをぶつ切りやめました。こうして崖から落ちるのを免れたのです。

監督や高等評議員として働いた10年間に、私は教会法廷に何度か立ち合ったことがあります。会員資格を問われるような立場にいる人は、崖淵から遠くにいるとは言えないと証することができます。たとえ以前に柵を作ったことはあっても、彼らの柵は壊れた状態にあると言えます。崖淵でつまづくまでサタンの調子に合わせて踊っているようなものです。

崖からの眺めにも似て、  
サタンは周到に用意した底無しの淵へ  
私たちを引きずり込もうと誘っています。

あなたや私が現世にいるのは、試しを受けて再び天父の王国に入るにふさわしいかどうかを証明するためです。キリストご自身がそうであられたように、私たちも誘惑に打ち勝ち、天に私たちの栄冠を求めるためにここにいるのです。たとえすべてを忘れていても、私たちは見捨てられることはありません。私たちには聖典からの導きと生ける予言者やそのほかの靈感あふれる勧告があります。さらに神の神権者の手によってバプテスマを受けた者には、聖霊の賜が与えられるのです。

### 神の完全な武具

エペソ人へあてたパウロの次の言葉は、あなたや私にとっても力強い助言であると思います。

「それだから、<sup>あ</sup>悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。

すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当<sup>ひねあて</sup>を胸につけ、平和の福音の備えを足にはき、その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。

また、救<sup>すくい</sup>のかぶとをかぶり、御霊<sup>みたま</sup>の剣、すなわち、神の言<sup>ことば</sup>を取りなさい。

絶えず祈<sup>いのり</sup>と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい。」(エペソ 6 : 13-18)

両親としての私には、子供が自分の柵を作るときに助ける責任があります。この大きなチャレンジや責任について深く考えると、自分が成功への希望と失敗の可能性の両方に直面していることがわか

ります。しかしひとつのことだけはよくわかっています。私は「平均的な」末日聖徒の家庭を持つことにはまったく興味がないということです。私の子供たちはそういう考えには難色を示します。もしも妻や私が子供たちに、安息日にはフットボールをしないように要求しようものなら、彼らにとって「ほかの子はみんなやっている」のに不公平だと思えるわけです。決められた時刻に家に帰るようになると言われれば、それも彼らにとっては、「ほかの人はそんなに早く家に帰らなくていいのに自分たちだけ不公平」となるのです。教会員の平均的統計では、若人のうち3人にひとりには伝道に行くとなっています。そして末日聖徒の若人は平均して、現在50パーセントが神殿結婚をしています。

我が家の息子たちのことを考えれば、3人のうちだれが伝道に出るのか、またほかの道を歩むふたりはだれなのか、私には決めかねます。私がアドバイザーになっている祭司定員会のジェフでしょうか。それとも私がコーチをしているリトルリーグのデニスでしょうか。お父さんと一緒にできることなら何でもすてきだと思っているアンディかもしれませんね。ほかのふたりよりも伝道の祝福を受けるにふさわしい人がひとりだけいるというのでしょうか。息子たちのうちどのふたりが、いわゆる「平均的」と言われるために、予言者の言葉に背を向けると言うのでしょうか。それとも、もっと有意義なことを見つけて行なうべきふたりがだれなのかわかる人がいるというのなら、私に教えてほしいと思います。

私の4人の娘のうち、どのふたりが神殿の聖壇で宣言される祝福を失うと私が決められましょうか。どなたか決めてくださると言うのでしょうか。大学生のふ

たりの娘、ローラとリニタがそれに該当するのでしょうか。我が家の音楽家であるジュニーはどうでしょうか。それともちょっとしたことで父親の私をほほえませてくれるかわいいメグでしょうか。一体どのふたりに私からふさわしくないなどと言えましょうか。あるいは公平ではないとか不誠実だとか決められましょうか。

いわゆる「平均的な」末日聖徒の家族を持つことは、私にとってはまったくもって耐え難いことがわかります。しかしながら、私たちが平均的な道を歩むことを選ぶのであれば、それは正に私やあなたがやがて手に入れるものなのです。

サタンがよく使う手段のひとつは、私たちが平均的な道を取ることに満足させることではないかと私は思うのです。すなわち、当たり前のことだからというわけで、少しぐらいの嘘はつく、ちょっとごまかす、あるいはちょっとしたことにつけ込むといったことです。こうしているうちに、私たちはニーファイの言葉どおり「心を配って地獄へつれて行」かれるのです。(II ニーファイ 28 : 21)

サタンは本当に実在します。私はその大きな力を感じるとともに実際に目にしてもきましたが、それは実に驚くべきものです。そのうえでなお、私はキリストが生きておられ、私たち一人一人に罪や過ちを認めるための必要な知識を与えてくださっていることを証します。

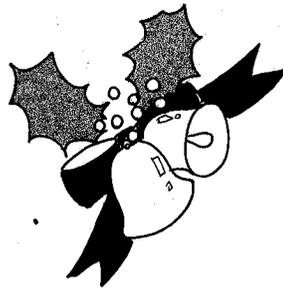
私たち自身と子供たちが己の柵を備えることができるように祈ります。イエス・キリストは私たちの力の源です。悪から退いて天父に立ち返るときには、あなたにとっても私にとってもその力が必要なのです。

(1984年7月10日のブリガム・ヤング大学での講話より掲載)

人生の旅路を行くときも、サタンは私たちを崖淵へ近づけようと必死で誘惑してきます。もし私たちが好奇心旺盛だったり、あるいは向こうみずで愚かだと、淵のどこまで近づけるか試してみたくなるかもしれません。







## 兄弟愛の贈り物

●アジア地域会長会 (左からヤコブ・ディヤガー第一副会長、ウィリアム・R・ブラッドフォード会長、ジョージ・I・キャンノン第二副会長)

この騒がしく気ぜわしい商業化された世の中であって、私たちは平和と心の安らぎを何よりも強く願っています。それはお金で買うことのできる物質的なプレゼントから得られるものではありません。

これまでのクリスマスを振り返ってみても、私たちの心に残っているのは、物質的なプレゼントではなく、クリスマスの精神と、この特別な時を迎えた私たちの心に満たされた平和と安らぎの気持ちです。

クリスマスの精神はいろいろな方法で生まれてきます。一致と思いやりの気持ちから、また温かいほほえみや握手、あるいは抱擁や笑い、音楽から、またはやさしく言葉の交わしたり、耳を傾けたりする静かさいせきで敬虔なひとときから。人は皆兄弟であり、同じ神の子であるという精神なのです。

私たちは永遠の父なる神の息子娘であり、それゆえ皆兄弟なのです。神は私たちの天父であり、私たちは神の霊の子供たちです。ですから私たちは神に属する者であり、神の家族の一員とも言えるのです。

平安と幸福を求める私たちの心は、私たちがまさしく永遠の神の家族の一員であるという真理を理解し受け入れるとき、満たされます。

アテネの人々は、あらゆる物質的な富と権力を持っていたにもかかわらず、この兄弟愛の精神を求めました。けれどもそれは、私たちと神の真実の関係を知ることによってのみ生まれてくるものです。パウロはアレオパゴスの評議所でアテネの人たちにこのように教えました。

「実は、わたしが道を通りながら、あなたがたの拝むいろいろなものを、よく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇もあるのに気がついた。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、いま知らせてあげよう。

この世界と、その中にある万物とを造った神は、天地の主であるのだから、手で造った宮などにはお住みにならない。

また、何か不足でもしておるかのように、人の手によって仕えられる必要もない。神は、すべての人々に命と息と万物とを与え、また、ひとりの人から、あらゆる民族を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに時代を区分し、国土の境界を定めて下さったのである。

こうして、人々が熱心に追い求めて捜しさえすれば、神を見いだせるようにして下さった。事実、神はわれわれひとりびひとりから遠く離れておいでになるのではない。

われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。あなたがたのある詩人たちも言ったように、『われわれも、確かにその子孫である。』(使徒17:23-28)

私たちはクリスマスを祝うとき、この「アテネの人たち」、すなわち知らざる者を拝むという無知な礼拝をする人たちのようにならないようにしましょう。そのような誤った礼拝をすることにより、彼らは神を見いだすことができず、生命を与えて下さった天父に属することの喜びを失ってしまいました。

真実の正しい礼拝をすることによって、ベツレヘムで生まれた御子は私たちの天父のひとり子であることがわかります。

御子は地上へ来られ、大切な使命を果たされました。それは全人類のための贖いの業です。御子は死の縄目を断ち切られ、全人類に不死不滅の賜を与えただけではなく、悔い改めるすべての者の罪をご自身に引き受け、それによって永遠の生命への道を開いてくださったのです。救い主のみ業は、和解のみ業であり、すべての神の息子娘たちが神の子供としての兄弟愛を持つようにその道を示して下さったのです。

このクリスマスの間、私たちは特に敬虔な気持ちでイエス・キリストを礼拝します。そして主の教えに従い、天父に喜んでいただきたいと思ひます。もし私たちが主の教えに従って生活するならば、霊的に生まれ変わり、キリストの息子娘、またキリストの特別な家族の一員と呼ばれるのにふさわしい者となります。そしてひとたびこの特別な関係を築いたあとは、決して孤独になることはありません。私たちの将来の幸福と昇栄を実現するためのキリストの計画を受け入れたキリストチャンの一員となるのです。その計画に参加する者として、私たちはお互いに結び合い、夫と妻、息子と娘、また兄弟姉妹として一致するのです。

クリスマスの精神と結びついた兄弟愛の精神は、ふたつの特に深い関係とかかわり合っています。ひとつは、私たちの天父である神との霊的な結びつきであり、もうひとつは、肉体の父や家族との絆です。

私たちは「神の中にキリストと共にこの世より隠された」(教義と聖約86:9)王家の一族に属する者であり、この神権時代に主のみ業をなすためにやって来ま

した。私たちはこの神権時代に属する者です。

また私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会に属しています。これはお金では買うことのできない贈り物であり、真理を理解し正しい生活を送って初めて得られるものです。そして神のみもとへ帰り、永遠に神と共に過ごすことができる道へと通じる門を開いてくれます。私たちの父なる神を礼拝し、偉大な予言者のひとりであるモロナイを通して語られた次の言葉を心に留めておきましょう。

「さて私はさらにあなたたちにすすめる。あなたたちはキリストの御許へ来て一切の善い賜物をつかめ。悪いたまものまたは汚れたものにかかわってはならない。

キリストの御許に来てキリストによって全くなれ。すべて神のみこころに背くことを捨てよ。もしこのようにして勢いと心と力をつくして神を愛するならば、神があなたたちに与えたもう恵みは充分である。恵みが充分ならばあなたたちはこの恵みを受けてキリストにより全くなる。もし神の恵みを受けキリストにより全くなるならば、決して神の能力と権能とを否定することができない。」(モロナイ10:30, 32)

この特別な時を迎え、皆さんは愛されており、決して忘れられてはいないことを理解してください。皆さんへの贈り物として、私たちはそれが確かな事実であることを申し上げたいと思います。この時期にあたって、皆さんが家族やそのほかの人々のために自分自身を捧げ、兄弟愛の精神に満たされますように。そして互いに、また神と交わることによって、あらゆるクリスマスプレゼントにまさる平安と喜びを得ることができますように。それこそ私たちすべての人に与えられた神の子としての兄弟愛という最も貴重な贈り物なのです。



## 扶助協会の組織変更

### —ステーク部管理会は廃止に—

**扶** 助協会に組織上の変更があり、1987年1月より全世界で実施されるという発表がなされた。

発表によると、ステーク部扶助協会管理会は1月以降存続せず、ステーク部扶助協会の組織は会長と書記のみとなる。しかし必要が生じれば、ステーク部ごとに特別の責任を設けることができる。

ワード部の管理会は、地元の必要に合わせて空席にしたり、ふたつの責任をひとつにしたりするなど柔軟性を持たせることができる。

この変更は、世界中の扶助協会の姉妹たちの必要を考慮に入れたものとなると、現在約1,750,000人を擁する扶助協会の会長を務めているバーバラ・W・ウインダー姉妹は語っている。

「私たちは責任の数を減らし、プログラムをそれぞれの国の状況に合ったものにするようにしています。世界のほとんどの国では、ステーク部管理会の会員に姉妹たちを召すのが困難な状態にあります。

組織が柔軟なものになれば、様々な文化や様々な年齢層にある姉妹たちが特別な状況の下にあっても適応していくことができます。」ウインダー姉妹は説明している。

18歳から30歳までの独身の姉妹たちは、正規の扶助協会の集会に参加するか、ワード部扶助協会の一部として独自の集会や活動を行なうことができる。しかし月に一度は正規の扶助協会の集会に参加する必要がある。

ウインダー姉妹はつけ加えている。「もうひとつの変更は、1987年からステーク部指導者会にはステーク部とワード部の会長と書記だけが参加するようになるということです。これは扶助協会の責任にある姉妹たちの時間や出費、でかける手間を少なくするためのものです。現職レッスンは、ワード部ごとに行なわれるようになります。」

各ステーク部での変更はステーク部指導者会で発表される予定である。

## 教会美術コンテストのお知らせ

### ☆一等には3,000ドルの賞金☆

**教** 会歴史部では、全世界の末日聖徒のための美術コンテストを開催することを発表しました。

歴史部の教会歴史・芸術博物館が後援するこのコンテストは、絵画、版画、彫刻が対象となります。

受賞者は1987年11月6日に発表されます。受賞者には賞金が贈られ、受賞作品はユタ州ソルトレーク・シティーの美術館において展示される予定です。

審査は2段階に分かれており、第一次審査は、作品の写真またはスライドで行なわれます。(写真およびスライドは返却されません) 第一次審査を通過した方は、最終審査で実際に作品を提出しなければなりません。応募用紙は現在入手可能です。

賞金はカリフォルニア州パロアルトの教会員で美術館の後援をしているジャック・ウィートリー兄弟とメアリー・ウィ

# 各地のたより

ートリー姉妹により提供されています。一等には3,000ドル、二等には2,000ドル、三等には1,000ドル、特別賞5点にはそれぞれ500ドル、そのほか複数の賞品が準備される予定です。(優れた作品であれば、受賞作品および参加作品は美術館の所蔵作品として購入される可能性があります)

七十人第一定員会会長であり、歴史部の管理部長を務めているディーン・L・ラーセン長老はこう語っています。「このコンテストに参加するようにという呼びかけは世界中の末日聖徒の芸術家が対象となっています。

審査員は末日聖徒の歴史や信条、聖典の主題、文化、生活様式、また教会が特に興味を持っている事柄や世界各地の聖徒たちの状態などをテーマにした作品を求めています。」

美術館の館長のグレン・M・レナード

兄弟は、応募者は最近の作品の中で特に優れた作品を1、2点応募することができるかと話しています。

「私たちは、末日聖徒の教義を扱った傑作を生み出すことができるように、アマチュアの芸術家だけでなくプロの芸術家をも援助したいと思っています。後援者のご好意をいただいて、このコンテストが、優れた作品を世に出すきっかけとなり、同時に教会のコレクションに主要な作品を加えることができることを望んでいます。」

## 「聖徒の道」の読者の皆様へ

教会歴史・美術博物館は、このコンテストへの出品を計画している兄弟姉妹のために、教会の管理本部資材管理部を情報センターとするよう手配しました。

応募用紙は管理本部資材管理部で入手することができます。出品用の写真また

はスライドは、1987年6月30日までに管理本部資材管理部あてにお送りください。こちらよりソルトレーク・シティーに送付します。

最終審査に残った場合、作品は同じく管理本部資材管理部を通してソルトレーク・シティーにお送りください。

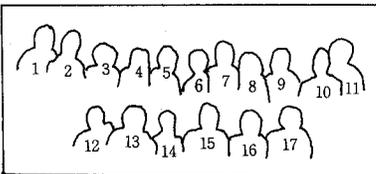
直接ソルトレーク・シティーの方へお送りになりたい方は、作品の写真またはスライドと応募用紙を下記の住所へお送りください。

Museum of Church History and Art  
45 North West Temple Street  
Salt Lake City, Utah 84150  
U. S. A.

教会管理本部を通して応募される兄弟姉妹は下記の住所へお送りください。

〒106東京都港区南麻布5-10-30  
末日聖徒イエス・キリスト教会  
資材管理部教会美術コンテスト係

## 9月に召された JMTC第88期生 17名の名簿



S:ステーキ部, D:地方部  
W:ワード部, B:支部



〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉	〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 上西博之	町田S/藤沢W	大阪伝道部	10. 赤沢直樹	大阪堺S/三国丘W	札幌伝道部
2. 岸本誠司	名古屋S/名東北W	札幌伝道部	11. 山口俊哉	東京北S/中野W	福岡伝道部
3. 清水良子	札幌S/豊平W	福岡伝道部	12. 羽土亜津子	名古屋西S/御器所W	大阪伝道部
4. 長崎真理子	大阪北S/京都洛南W	札幌伝道部	13. 白原知枝子	広島S/光W	福岡伝道部
5. 川合伸代	名古屋S/岡崎W	仙台伝道部	14. 畔柳久美子	名古屋S/岡崎W	福岡伝道部
6. 石神和子	東京南S/渋谷W	仙台伝道部	15. 水野秀子	名古屋S/名東北W	札幌伝道部
7. 村田美代子	山口D/宇部B	福岡伝道部	16. 草園菊江	山口D/宇部B	東京南伝道部
8. 表とし子	北陸D/金沢B	札幌伝道部	17. 板橋奈穂子	仙台S/上杉W	福岡伝道部
9. 羽田徹子	郡山D/郡山B	東京南伝道部			

# 再組織された 大阪堺ステークス部長会 新ステークス部長に 小松忠兄弟(38歳) 召される



**去**る9月21日、七十人第一定員会会  
員でありアジア地域会長会第一副  
会長であるヤコブ・ディヤガー長老管理  
の下に、後期大阪堺ステークス部大会が開  
かれました。

その席上、これまで4年半にわたって  
ステークス部長の責任を果たしてこられた  
高吉弘志兄弟が解任され、新たにステーク  
ス部長として、小松忠兄弟(写真中央・  
堺ワード部)、第一副ステークス部長に首藤  
保兄弟(写真左・泉佐野支部)、第二副ス  
テークス部長に光川銀三兄弟(写真右・三  
国ヶ丘ワード部)が召されました。

私たち新ステークス部長会は、前ステーク  
ス部長会の築いてこられた目標を継承し  
つつ、まず神の王国を築く基となる個人  
と家族をいかにして聖めることができる  
か熟考し、勇気をもって実行していきたい  
と思っています。私たちが聖められる  
とき、世の光となり、イエスの証人とな  
り、伝道の業が、神殿の業が前進するの  
は確かです。また伝道、神殿の業に喜ん  
で励むとき、私たちは赦しを受け、聖め  
を受けるのです

「聖徒を全き者」とし、「伝道」および  
「神殿、糸図」活動に励むという教会の

崇高でしかも不変の目標に向かって一歩  
でも近づくよう、信仰と祈りにより主の  
みこころをいつも求めていきたいと思  
います。(レポーター：大阪堺ステークス部  
第一副ステークス部長・首藤保)



## 「私は自分のことは誇らないで ただ私の神のことを誇る」

大阪堺ステークス部長 小松 忠

**9**月19日(金)午後8時から、大阪に  
オープンしたばかりのホテルニュー  
オータニで教会幹部のヤコブ・ディヤ  
ガー長老から、ステークス部長会、高等評  
議員、監督の順番に面接がありました。  
何の目的の面接かはうすうす感じていま  
したので、頭の中で提案できる忠実な兄  
弟たちのことをいろいろ考えていました。  
私は堺ワード部の監督をしていましたの  
で最後の面接を受けることになっていま  
した。

私の順番が来たときには、午後11時を  
回っていました。ディヤガー長老は、高  
吉ステークス部長が名誉の解任をされるこ

とを告げられ、いくつかの質問をされま  
した。とても短い時間でした。「明日仕事  
がありますか？」と聞かれましたので、

「ステークス部大会のために時間を空けて  
います」と答えました。すると「明日午  
前11時にこのホテルに姉妹と一緒に来て  
ください」と言われるのです。面接はこ  
れだけでした。私には「だれをステーク  
ス部長として提案なさいですか」という質  
問はされませんでした。(その理由は翌日  
にわかりました)

翌日再び面接を受け、「主はあなたを堺  
ステークス部のステークス部長として召され  
ました」と告げられたときは正直なとこ

(こまつ・ただし 昭和23年生まれ。自営業  
(シャクリ株式会社マスターコーディネー  
ター)これまで高等評議員、副ステークス部長  
(7年)、監督などを歴任)

ろ恐れを感じました。信仰が強く経験の  
多い忠実な兄弟たちがたくさんいるのに、  
なぜ私がとりましたが、主はこれまで  
長い間私を訓練してくださいましたので、  
もし私を必要としてくださるのであれば  
喜んで時間と才能とお金を捧げるべきだ  
と思いました。

私は1948年12月2日、岡山県の片田舎  
で6人兄弟の末っ子として生まれました。  
子供のときから体が弱く病気がちで、小

# 各地のたより

学校4年生のときには結核になり、遊びがかりの時期を暗い気持ちで過ごしました。体育の時間は決まって校庭の真ん中の松の木の下で見学していました。その頃から自分の殻に閉じこもるようになり、おとなしく無口になっていきました。

中学校2年生頃には医者通いもしなくなりました。しかしそれまでの4年間、スポーツをして楽しむことができずいたため、体育の時間になっても何をやっても下手くそでみんなに笑われました。死にたい気持ちで学校に行ったこともあり、劣等感以外何も持ち合わせないままで中学校を卒業しました。

高校に入って1年生の夏休みに、大阪から帰郷していた姉と岡山市内を歩いていたとき、宣教師と出会いました。1964年のことです。1枚もらったチラシを姉は大切にしまって大阪へ帰って行きました。私はもうチラシのことなどすっかり忘れていました。姉はそれから岡山の教会に手紙を書き、大阪の教会を探しました。やがて姉は宣教師から学んだことを手紙で私に教えてくれるようになりました。私は教会に行くようになる半年前から全部の戒めを受け入れ守りました。お祈りもしました。それでも自分からは教会に行く勇気を持てずにいました。

1965年3月、姉が再び帰郷したとき初めて教会に連れていってもらい、1965年4月18日にバプテスマを受けました。会員になってからも集会が終わると逃げるようにして帰る時期が続きました。人から話しかけられるのが恥ずかしかったのです。しかし、教会はそんな私をいつまでもほってはおきませんでした。いろいろな責任が与えられるようになり、尻込みしながらも一生懸命やっていくうちに、神様の助けによってやればできるという信仰が育っていきました。

1970年万国博が大阪で開かれたとき、専任宣教師として伝道しました。初めての任地は今私が住んでいる堺市で当時阿倍野から分かれたばかりの小さな支部でした。聖餐会も宣教師を入れて15、6人だったと思います。今では大きくなり4つのユニットに分かれました。伝道が終わるとき伝道部長は「小松長老、伝道した所へは帰らないほうがいいですよ。なぜなら会員はあなたのことをいつまでも

宣教師として見ますから、しんどいですよ」とおっしゃいました。今もその言葉を肝に命じて頑張っています。

家内は1969年11月、支部最初のバプテスマを妹と一緒に受けました。忠実に信仰を守ってきた立派なシオンの娘です。彼女は私の一番の友人であり永遠のパートナーです。いつも慰め励ましてくれくれます。いつでも彼女といると何でもできるという自信を持つことができます。私は世界で一番幸せな結婚をしたと思っています。結婚式が終わってホテルで一番最初にしたのは、家内の頭に手を置いて私の妻として伴侶として祝福いたしました。今でもそのときの祝福と勧告をよく覚えて、私を支持してくれることを感謝しています。いつも責任に召されるとき何のためらいもなく「はい」と言えるのは妻のおかげです。

故キンボール大管長は「教会の強さは、個人と家族の強さに依存している」と言われました。またシオンに住める民に対して次のように戒められました。心して頑張りたいと思います。

「シオンに住む民は、その任命せられたる働きあらば、これを憶えて全く忠実に務むべし。およそ怠る者は主の前に憶えらるべければなり。

今やわれ主は、シオンに住める民を悦ばず。そは、怠る者その中にあり、彼らの子らもまた今や次第に悪事に増長し、永遠の富を熱心に求めずしてその眼は食欲を以て充さるればなり。

かかることはあるべからず。故にすべからく彼らの中よりこれを無くすべきなり。」(教義と聖約68:30-32)

信仰生活21年間を振り返ってみて、福音は本当に人を変えるという確固とした証があります。神様は長い時間をかけて私を育ててくださいました。私の信仰を支えてくれる聖句はたくさんありますが、特に次の聖句をあげたいと思います。

「私は自分が取るに足らない者であることを知っている。私の能力は弱い。それであるから、私は自分のことを誇らないでただ私の神のことを誇る。それは神のたもう能力によって何事もすることができからである。」(アルマ26:12)

これは小さな私を本当に支えてくれた聖句です。大変大きな責任ですが信仰をもって頑張りたいと思います。神様とイエス・キリスト様が生きておられることを心から証いたします。聖霊がいつも励まし助けてくださることを心から証いたします。(こまつ・ただし)

## 新役員の新任(任命)

9月16日から10月15日までに日本東京管理本部会員記録統計課に通知のあった役員の新任(任命)

●三重地方部四日市支部

新支部長:樋口茂治(前任者:嘉志摩芳夫)

●大阪堺ステキ部堺ワード部

新監督:鈴木謙三(前任者:小松忠)

●大阪堺ステキ部羽曳野ワード部

新監督:服部昌和(前任者:北垣武文)

●大阪堺ステキ部泉佐野支部

新支部長:雪本治(前任者:首藤保)

●広島ステキ部徳山ワード部

新監督:上野敏幸(前任者:田口実康)

●広島ステキ部安古市支部

新支部長:田村泰一(前任者:高西実)

●高松ステキ部高松ワード部

新監督:木村美貴男(前任者:工藤徳幸)

●高松ステキ部高知ワード部

新監督:別役光宏(前任者:藤田和雄)

●高松ステキ部坂田支部

新支部長:谷本弘志(前任者:末沢俊明)

●熊本地方部熊本北支部

新支部長:小畑康正(前任者:宮瀬英都)

●熊本地方部八代支部

新支部長:井手原隆男(前任者:一美豊)

●沖縄那覇ステキ部名護支部

新支部長:喜納明(前任者:金城時男)



## フランス歌曲を 歌い続けて

### ●ソプラノ歌手 小山栄子姉妹の プロフィール



●ステージでの小山栄子姉妹

ほっそりと小柄な小山姉妹のどこに、歌へ向ける貪欲なまでの執念があるのでしょうか。プロとして、ためまぬ勉強と努力を積み重ねられ、神様から賜わったすばらしい才能を十分に発揮し、主を賛美しつつ、豊かな芸術を追求している姿は、まことに清く美しく、まさしく神を信仰しつつなせる業だと言えるでしょう。

小山姉妹は声楽曲、特にやさしくジーンと心にしみるフランス歌曲を中心に、今まで多くの方々に深い感銘と安らぎを与えてこられました。札幌生まれで東洋音楽大学（現在の東京音楽大学）を卒業されました。その頃、フランス歌曲で今世紀最大の歌手と言われるフランスのジェラルド・スゼーに深く感動し、声楽家になることを決意されました。「これほどきれいで、甘く、静かに魂を揺り動かす声があるだろうか」と一遍にスゼーに酔ってしまわれたそうです。より一層研鑽を積もうとフランスに留学（1971-74, 82-84）、それ以来、ずっとフランス歌曲にのめり込んでこられました。

スゼーは弟子をとらないというのを熱心にねばって、とうとう弟子第1号となりました。ジェラルド・スゼーとジャンヌ・バダール女史に師事され、国際フェスティバル・ボルドー・ビエンナーレで入賞、U.F.A.M.コンクールで第1位、フランス歌曲指導者連盟主催コンクールで特別賞、レオポール・ベラン・コンクールで第1位など、輝かしい多くの賞を獲得されました。

また、長年にわたり、フランス、オランダ、日本（東京、横浜、札幌）にて、リサイタルやサロンコンサートを行ない、幅広い演奏活動をされています。なお、来年1月に大阪にてサロンコンサートを、5月にはオランダとフランスでリサイタルを開催される予定になっています。

主のあふれんばかりの愛と恵みと導きが小山姉妹とご主人の上に豊かに注がれますように、今後ますますのご活躍を祈っております。（レポーター：大阪ステークキ部祝福師・肥後深司）

## 「『神の愛』が私にとって最も大切で、 必要なものであると、痛感しました」

大阪ステークキ部大阪ワード部 小山 栄子

**私**は昨年12月に、バプテスマを受けました。フランスに留学していた頃、友人がきっかけで、それまで考えてもいなかった信仰ということ初めて心に留めました。それまではただ単に自分が打ち込んでいる音楽のために、キリスト教の思想に興味を持ってはいましたが、信仰とは結びつきませんでした。

留学生活を終えて日本に帰って来てから、自分が音楽で身を立てるのに、これからどのような方向で生きていくかを考えなければならなくなったときに、たまたま宗教哲学の先生と知り合い、それから宗教の勉強を始めるようになりました。

初めはおもに仏教でしたが、私にとって意義深いものでした。菩薩について学んでいましたが非常に理解しにくく、なぜか心に入ってこないものをいつも感じていました。その間にも勉強やコンサートで日本とフランスの間を何度か行き来し、時間が過ぎていきました。

3年前にパリに滞在していた間、主人が東京から大阪に転勤になり、そのため私も一時帰国しました。ちょうどそのとき、宣教師の方が見えられ、初めてモルモン教会のお話を伺いました。その後すぐまたヨーロッパに戻り、コンサートや勉強を片づけ、昨年夏に帰国してからは



## 各地のたより

定期的に宣教師のレッスンを受け、ほどなくしてバプテスマを受けました。

仏教を学んでいたのになぜこの教会に入ったかと言いますと、モルモン教会の教えに仏教の考え方と似たところがあり、私にとって理解しやすかったこと、そして頭で理解するだけではなく、より高い次元へ宣教師が導いてくれたこと、もうひとつは、いわゆるキリスト教の最も大切な愛について非常によくレッスンをしてくださったからです。以前、私が仏教の菩薩について苦手だったのと同様に、愛について頭で理解できても、心ではつかみにくいものでした。それで私は、自分にとって一番わかりにくい「神の愛」が私にとって最も大切で、必要なものであると痛感したのです。

バプテスマを受けるために、知恵の言葉などいくつか守らなければならないことがありましたが、アルコールにしてもコーヒーやお茶にしても、もともとあまり飲みませんでしたので、むずかしいことではないと思っていました。ところがバプテスマを受けたあと、悪魔が誘惑するかのようになり、それらを守ることが大変むずかしくなり、一時はとてもいやな世界に閉じ込められていました。しかし、「何事も簡単にできることは後で進歩しない。」「むずかしいことは勇気を奮って一生懸命努力することによってはじめてレベルアップができる」ということを聖書や宣教師の方から教えられ、とても心が平安になりました。

スムーズに前に進めず、あちこちぶつかりながらこの道を歩いているような感じですが、このような状態を、いつも温かく助けてくださる教会の皆様には、頭が下がる思いがしています。

最近、私が以前ヨーロッパに留学していた頃、私の先生の言われた言葉「歌とは人間を愛することである」とか、あるいはそのほか宗教についてのいろいろな事柄が、そのときはまったく理解できず、あるいはあまり気にもしていなかったことが、急にわかるようになったり、突然そのときの言葉が次々と心に浮かび出てくるようになりました。現在の私の信仰は、そのときからすでにつながっていたように思えます。

この頃、特に自分の生活の行ないをも

っと丁寧に見ていかなければならないと痛感し、またそのような勇気を与えられるよう願っています。そうすることによって福音の精神が私自身である私の歌にも反映するよう願っています。

この教会に入って、福音の勉強を通して、確かにこの教会は私にとってただひとつの真実の教会であることをはっきりと証いたします。(こやま・えいこ 大阪ワード部扶助協会教師)



## 青少年の活動で神殿に参入して

名古屋ステーキ部名東南ワード部 土田 敬介(高3)

今年を私を含め、ワード部の青少年の約半数の5人が受験生です。そのためか、青少年委員会を開いても、何か特別な活動をしたいという要望は少しもありませんでした。そんなとき監督から、「神殿訪問をして死者のためのバプテスマを受けてきたらどうか」という提案がありました。初めは皆行くか行かないかわからないようなことを言っていました。監督、両親の励ましもあって、10人が8月29、30日に神殿訪問することになりました。

儀式が30日の早朝に行なわれるため、29日の朝、名古屋を出発しました。約7時間バスにゆられて東京に着いたのは午後3時頃でした。一度神殿別館の宿舎に荷物を置き、かねてから計画してあった

原宿巡りをしました。そのときばかりは皆、神殿のことは忘れて買物などに熱中していました。そして夜は、私たちの前監督であられた川崎家族を訪問し、夕食をごちそうになったりして大変楽しいひとときを過ごし、宿舎に戻りました。

翌朝、神殿入口に集まった皆の顔はやや緊張気味でした。儀式の経験者が10人のうち3人しかいないので無理もないことかもしれません。神殿の中へ入ると外とは打って変わって、静かでとても清潔な感じがし、これがまさしく主の宮居であると感じました。受付で白衣を渡され、着替えて座っていると、皆白衣なので、霊界にいるような気さえしました。

私にとって死者のためのバプテスマは2回目でしたが、1回目よりも得るもの



●八月二十九、三十日に神殿訪問をした名古屋ステーキ部名東南ワード部の青少年と指導者。左端は今泉秀之監督

## 各地のたより

が多かったような気がします。今回はまだ中学1年生でしたので儀式の意味もあまりわからずに受けていたような感じでした。しかし、今回は今までセミナーなどで学んだことをよく頭に置き、先祖に対する思いを強めて行きましたので儀式を受けたときは、本当に大きな満足感がありました。

神殿訪問が決まってから1カ月間は、この世的なことはなるべく避けられるよう、主に祈りました。按手札のときには、一人一人読みあげられる方々の名前を聞

きながら、この方たちのためにもこれからももっと自分に厳しく、教会の福音に添った生活をしていかなければならないと改めて思いました。

これからも機会があれば何度でも神殿に参入して、少しでも先祖の方々の役に立てればいいなと思います。本当にこの教会が真実であり、神殿はまさしく主の宮居であることを証します。(つちだ・けいすけ 1968年生まれ、名東南ワード部祭司定員会会長補佐)

ではなく、主が証なさっているようにも思えました。とても敬けんになりました。私の名前が呼ばれ、死者のためのパプテスマが行なわれているフォントのある部屋へ入っていくと、この世にはない神秘さとおごそかさで、さらに緊張しました。何度も何度も心の中でへりくだって祈りました。「私の心を静めてください」と。自分のパプテスマのときよりずっと緊張しました。

水の中に入ると、少しずつ緊張がとけていきました。私が身代わりになった死者の方たちは、きっと長い間霊界でパプテスマを受けることを待っていたらと思うと、涙が出そうでした。きっと喜んでくださっていると思うと、水に入る前の緊張は、水から出たときには大きな喜びに変わっていました。「受けてよかった、本当に来てよかった。」そんな気持ちでいっぱいでした。こわばった顔に笑みもどってきました。按手札を受け終えたときには、「来年も絶対に来よう」と心に決めていました。

今まできちんとやっていたなかった私の先祖の糸図の探求を帰ったらやろうとか、いつもなにげなく接している兄弟たちは、私たち姉妹にはない神権の力を行使する、偉大な人々と改めて強く思うなど、今までの自分を反省することもできました。

今回の神殿訪問で、私の知らない方々に奉仕することによって、主が確かに生きていらっしゃることに、この教会が本当の教会であることが今までよりも、ずっと強く証できるようになりました。(たぐち・はるみ 1972年生まれ)



(イラスト：広島ステーキ部柳井支部・三浦陽子)

## あの2日間に悔いはない



名東南ワード部 田口 晴美(中3)

**私**は8月29、30日に東京神殿を訪問する機会がありました。神殿はこの教会を知ったときからの憧れの場所だったので、当日までとてもわくわくしていました。しかし訪問前に、私には解決しなければならないいくつかの問題がありました。ひとつは、私の両親は教会員ではありませんので、気持ちよく神殿に行かせてくれるかどうかかわからないということです。また、私は大切な受験を控えていますし、そのうえ夏休みが終わればすぐテストがあるので、8月の最後の貴重な2日間を勉強もせずに過ごしてよいのだろうかという不安です。

私は両親の許可をもらう前に、心から主に祈りました。ホームティーチャーである志村兄弟たちも、一緒に祈ってくださいました。すると主は私の願いをかなえてくださったようで、両親はすぐに「行って来ればいいよ」と快く賛成してくれました。私はとてもうれしくて、心の中で何度も主と、理解ある両親に感謝しました。

受験やテストのことは自分なりによく考えた結果、私の心さえしっかりしていれば2日間でそんなに変わるものではない、むしろ大切な神殿に行かないと気に

なって何も手につかず、かえって無意味な2日間になってしまうと思い、絶対に行こうと固く決心しました。1度だけこの世のことを思いましたが、後悔しないという気持ちの方が強く、迷いは消えました。ですから神殿には何の悩みもない状態で入ることができました。

しかし中に入ってからはずっと違いました。神殿の中は、外と違って静かです。主が私たちを見守ってくださっていることがよくわかりました。悪という言葉がまったく存在しない所だと思いました。そのせいか、私の心臓は飛び出るほどにドキドキし、足は少し震えていたような気がします。動いていなければどうかなってしまいそうでした。私の行動、思いのすべてを主がごらんになっていると思いました。

体を清め、白い服を着て、すでにこの世を去った人々の身代わりのパプテスマを受ける準備をし、いすに座しているとき、「もっと備えをしておくべきだった、これでは私が身代わりになる人々がかわいそう」と思い、少しでも自分がふさわしくなれるように祈りました。

祈り会の際の神殿の方の証は、なぜか心にすっと入ってきました。神殿の方

# 団地のカミさん コロンボ顔負け

南区の元塩住宅 少女脅迫事件



3人で協力し、お手柄の仲よし主婦（左から鈴木、浅川、後藤さん）

## 名推理で子供会緊急配備

「犯人、きつとまた……」

4日後「小説、地で行く」追跡

名古屋南区元塩町四丁目の市営元塩住宅で、女子中学生が若い男に金を脅し取られそうになる事件があったが、同住宅の主婦らが同様な連係プレーで、再び現場に現れた犯人を追跡し、駆けつけた南警に引き渡した。「少し怖かったけれど、無我夢中でした。お役に立ててうれい」と三人。同輩はあす十九日、この三人を賞長表彰する。

お手柄の三人は、浅川千尋さん（三女）、後藤ひかるさん（三女）、鈴木さゆりさん（三女）。この中学生が偶然見つけた母親に教え、母親は二〇番通報する一方、子供会役員でパトロールをしている浅川さんに知らせた。

浅川さんは外に飛び出し、男の衣服や人相を覚えて来た。子供を広場で遊ばせるために来ていた鈴木さん、たまたま通りかかった子供会役員の後藤さんに男を見張るよう頼んだ。

三人でしばらく様子を見ていると、男は気配を察知して同住宅西側に止めてあった白色の乗用車に乗って逃げた。浅川さん三人は車のナンバーをメモし、駆けつけた同警員に知らせた。間もなく、車は近くの中学校前で乗り捨てられた。

り捨てたのであるが見つかず、盗難車とわかった。手がかりの車が盗まれたものと同様でガツカリした三人だったが、「徒歩だから、きつこの辺に居るはず」と浅川さん。気を取り直した三人は、浅川さんがマイカー、後藤さんと鈴木さんは自乗車で、それぞれ中学校周辺を必死に捜し回った。

約十分後、浅川さんが、同住宅から数百メートル離れた駐車場で逃げようとする男を発見。車で数分追いかけて、男の前方から追跡、話を待ちかたせられた時、それを見かねた浅川さんが、「これは小説を地で行ける」と直感。三女、私たちが捕まえよう」と、迷うことなく意気投じてたという。「これから同地の防犯のためにがんばります」と三人は話している。

## 地域社会での奉仕と安息日

名古屋西ステーキ部御器所ワード部 浅川 千尋

キリスト教の土壌のある欧米と違い、私たち日本人は時として安息日を守るのに困難と思われる慣習がいくつかあります。そのひとつに子供を持っている親が必ず直面する子供会があります。私は学生の頃改宗し、多くの指導者が「アメリカの地域社会では『モルモン』と言え『なるほど』と言われるぐらい信頼されている」と聞き、自分が大人になったら「なるほど」と言われるモルモンになりたいと思っていました。

子供が成長するにつれ子供会の当番がくることを覚悟していましたが「地域社会で奉仕したいし、「安息日も完全に守りたい」とい

## 新聞からの話題

●「中部読売新聞」昭和六十一年九月十八日付



## 各地のたより

うことで思い悩んでいました。しかし主は私たちがどの程度決心しているか信仰を計られ、その決心の度合に応じて祝福をしてくださると思います。

私の住む団地には360世帯が入居していて、そのうち小学生が150人もいるマンモス団地で、役員が8人います。

今年の3月、役員を引き継ぎのとき、私は教会のことを説明し、子供会の責任を「日曜日はどうしてもできないので、週日に私ひとりでも子供たちとやりますからやらせてください」と言いました。私が言い出すや間髪を入れず、ひとりの方が「ではいつするんですか？ 普通の日になんかとってもできませんよ。土曜日にしたってクラブ活動や塾、習い事があるし、日曜日にだって30人くらいがやるとなのに……。実際の話お宅の子供さんだって部活で出られないんじゃないですか！」と責め立てます。ひとりが言い出すと次から次へと5、6人から集中攻撃をかけられ、さすがの私も当惑しました。しかし私の決心が固いことを知ってひとりの方が「一度浅川さんに廃品回収をやってもらいましょう。30人以下ならまた考えればいから」と言ってくださいました。私は「必ず30人以上集めます」と断言しました。

私は安息日を守りたい一心でポスター

作りはもちろん、広場で遊んでいる子供に声をかけたり、戸別訪問したり、分団集合場所にプラカードを持ってお願いに行きました。

努力のかがいがあったか当日80人の子供が来てくれました。(9月現在80人を切ったことはありません)「浅川さんにお任せします。」役員の方は皆さんそう言ってくださいました。私に集中攻撃をかけたひとりの方が「口ではあんなこと言っただけで尊敬するわ」と言われたとき解放された気持ちになりました。

「真理は自由を得させる。」まさにそのとおりです。私の安息日を守る決心が固かったのが主が祝福してくださいました。

先日の日曜日も学区合作画コンクールがありましたが、私は祭日に町内の運動会の実行委員長の責任を受けていますので大きな顔をして休めます。また9月19日、団地で起きた脅迫事件の犯人逮捕に協力したということで警察署長より感謝状をいただきました。

私はこれからも安息日を完全に守りつつ、地域社会の方々から好意的に見られるモルモンとなり、伝道のお役に立ちたいと願っています。(あさかわ・ちひろ 1952年生まれ、御器所ワード部初等協会会長)



●藤谷ご家族

はありません。霊的な満足もなく、一人一人が「寂しい状態」なのです。

新約聖書にこうあります。「あなたがたは知らないのか。……あなたがたも、賞を得るために走りなさい。……彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである。」(Iコリント9:24-25)

神の子供たちがこの朽ちない冠を得られるように手伝うことは、簡単なようで何とむずかしいことでしょう。イエスの模範による愛と行動力があれば、これほど簡単なことはありませんが、この愛と行動力を持ち合わせていなければ、これほどむずかしいこともありません。

これまでの新聞掲載と6月5日のテレビ放映(NHKの特別番組「教育を考える」でマイスクールの様子が10分間にわたって四国4県で放映され、多くの反響を得た)は、すべてマイスクールの子供たちの強い愛に支えられてのものでした。問題のあった子たちが、人前に顔を出し、自分の歴史を家族ともども記者に話すことには、自己を捨てるほどの勇気が必要です。また、そこには、「自分と同じように悩む人がここに頼ってくれたら」という願いもありました。新聞は、コピーがコピーを呼び、長崎県から奈良県と広い範囲にわたって生徒たちを導いてくれました。また、テレビは、死ぬことまで考えていた母親と生徒たちを導いてくれました。夏休み中、7件の登校拒否問題(特に教師と反目し合っている場合)を解決するお手伝いをさせていただきました。午前中は、問題を抱えておられる方々のお話を伺い、午後には学校側と、立場をよく踏まえ、熟慮したうえで面談をしては、

## マイスクールの子供たち⑥(最終回)

— 宣教師に紹介した人々は70人に達しました —

高松ステークス部新居浜支部 藤谷 利恵子

日本の教育問題に対して、多くの大人たちが無関心でいるうちに、その問題はどんどん大きくなってきました。思春期、青春期という最も神の愛に触れるべき時期に、神の子たちは、天父とイエス・キリストの模範や属性とはまるく縁のない生活へと追いやられているのです。

日本の法律、教育基本法第1条には、こうたわれています。

(教育の目的)「教育は、人格の完成を

めざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない。」

日本の教育は、モロナイが教えた自由や愛、また末日聖徒の指針でもあります。「信仰箇条」と同じ真理を求めているのです。しかし現実には、入試、偏差値、塾、管理教育などと、子供たちにとってすがすがしい空気を胸いっぱい吸える状況で

# 各地のたより

主に導きを求めながらあらゆる方法を探しました。教師の手や言葉による暴力に傷ついてしまった生徒たちの場合は、話し合いがうまくいかなかったりすると、またもや傷つき、最後には立ち直れなくなります。「みたま」の助けがどうしても必要でした。

ある懇意な小学校校長の依頼で、教育委員会と親たちとの板ばさみにある暴力教師を何とか助けようと開かれた職員会議の席上、私は講師として招かれました。子供たちの心からの叫びと何に満たされていないかを話していますと、若い女性教師たちがポロポロ涙を流し始め、校長

先生までもが、ハンカチを取り出されました。それ以来、その教師は暴力をふるうことがなくなりました。

1件1件、「もうこの子は、救えないのでしょうか」と泣きながら主にすがり、「お父様、みこころのままに」と申しあげ、祈り求めていくときにそれらは解決していきました。

これらのことに携わるとき、必ずやってくる試練がありました。マイスクールの維持が、夫の肩にかかっているのを熟知している狡猾なサタンが、彼の仕事を失わせることで挑戦してきたのです。人々に対し、全身全霊で我が家がひとつとなって、福音を分かち合おうとすればするほど、夫の仕事は取りあげられました。

去年の10月27日にバプテスマを受けて以来、8カ月間で就職先を5回も変わらねばなりません。行く先、行く先で倒産や給与不払いなど、毎日働きながらも、お金が入らない日々が続きました。2年半前の、マイスクールで第1番目の生徒を迎えたときから、「奉仕以外の心が生じたら、やめなさい」と夫から厳しく言われていました。(私も働きに出ようか。でも、今、昼間来ている登校拒否の子供たち、浪人学生たちは一体……)生徒か生活か、毎月のように心が揺らぎました。今年の3月3日、バプテスマ1周年を喜びで迎えるはずの日、私は本当に悲しくて泣きました。そして、「あのマカロニをゆでて食べたら、もう終わり……。どうぞ、天のお父様、私たち家族をあなた様の所へ……」と祈った日、大きなダンボール箱が届けられました。何とお米と雑貨が入っていました。広島にいる

## 「自転車を拒むぞ」

<6>

二十八の子どもの母は、藤谷利恵子(仮名)おぼろげに「先生」「藤谷さん」と呼ぶのを聞いて、これらの子供たちを呼ぶのを拒む。これらの子供たちは、藤谷さんと呼ばれてはならない。藤谷さんと呼ばれてはならない。藤谷さんと呼ばれてはならない。

マイスクールは、中学浪人生四人が藤谷さん宅で学んでいた。藤谷さん宅で学んでいた。藤谷さん宅で学んでいた。藤谷さん宅で学んでいた。藤谷さん宅で学んでいた。

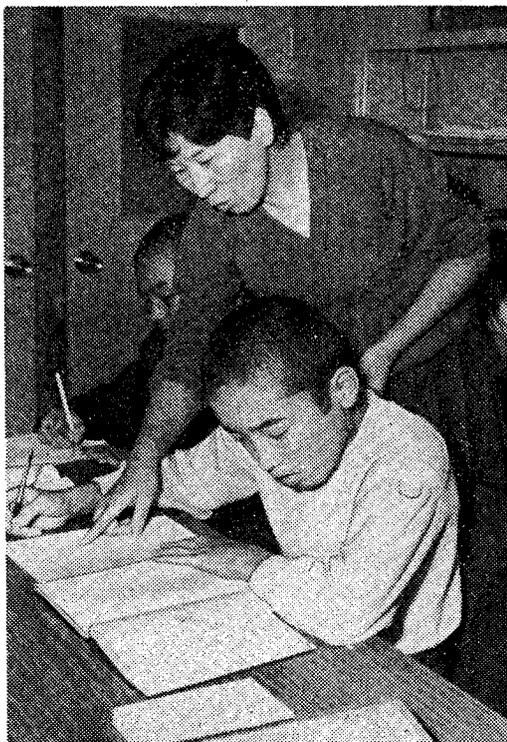
藤谷さん宅で学んでいた。藤谷さん宅で学んでいた。藤谷さん宅で学んでいた。藤谷さん宅で学んでいた。藤谷さん宅で学んでいた。

「自転車を拒むぞ」

この話を聞いて、「ぼくも自転車を拒む方法を習得したい」と言った中学生は、それ以降は自分で電話をかけるようになった。これは、それまで隠れたところの友人に誘われるまで我慢していた。自己心を尊重していた。そして、それまで隠れたところの友人に誘われるまで我慢していた。自己心を尊重していた。そして、それまで隠れたところの友人に誘われるまで我慢していた。自己心を尊重していた。

自己心を尊重していた。そして、それまで隠れたところの友人に誘われるまで我慢していた。自己心を尊重していた。そして、それまで隠れたところの友人に誘われるまで我慢していた。自己心を尊重していた。そして、それまで隠れたところの友人に誘われるまで我慢していた。自己心を尊重していた。

## 無理解はね返す支えに



子どもたちに対していつも真剣な藤谷さん。小学生に勉強を教えるために予習するだけでも大変だという  
—新居原市徳富町で—

以上に、その親との話し合いの方が大切なことが多い。藤谷さんの指導はどの子に対しても平等だ。「私の子どもたち」

た何人かの子どもたちの笑顔が、藤谷さんには忘れられない。その一方で、藤谷さんの中学生時代、口の不自由な同級生がいて、十分な話し相手にならなかった自分が悔しかった。口の不自由な同級生がいて、十分な話し相手にならなかった自分が悔しかった。口の不自由な同級生がいて、十分な話し相手にならなかった自分が悔しかった。

## お金では買えぬ笑顔

電話は母親ばかり

マイスクールのある水曜日

は、藤谷さんの家の電話は鳴り出した。「あのう、息子は風邪が治りました。でも今日は休校です。……」

は、藤谷さんがマイスクールに

情熱をこめて、藤谷さん

教師でした。この子も本当は勉強のできる子なんです。どうか、私は一高の出身なんです。この子も、たつ母親

金では買えない宝物だから

だ。

マイスクールを休む時とある時はあなたが電話する。……」

は、藤谷さんがマイスクールに

情熱をこめて、藤谷さん

教師でした。この子も本当は勉強のできる子なんです。どうか、私は一高の出身なんです。この子も、たつ母親

金では買えない宝物だから

だ。

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

……」

## 各地のたより

教会員の方が、瀬戸内海を越えて愛を示してくれたのでした。また主人の母が、年金の中から心からの助けをしてくださいました。今は、夫の職業にまたどれほどのことが起ころうとも、家族全員主を信頼していますので、何の恐れもありません。

7月に、「登校拒否の生徒が、ひとクラスに3人もいる」との情報を得、すでに転校を決めているというひとりの生徒の家に電話をしました。突然の電話と不信感で、かたくなに心を許そうとしない母親に、いつものように天父とイエスの証をしていると、突然「モルモンですか？」と聞かれました。その方は、15年前に徳山でバプテスマを受けておられたのです。兄弟ともども10年間、転勤に次ぐ転勤で、教会から遠ざかっておられたようですが、姉妹はすぐに信仰の炎を燃え立たされました。「聖徒の道」を3カ月分プレゼントしましたら、涙ぐんでおられました。翌月、その姉妹から、15年前の「聖徒の道」を半年分頂きました。私は、教育、家庭、教会と、何でも話せる身近な姉妹を初めて見つけたのでした。

8月20日、やはり和歌山へと移られたその姉妹は、登校拒否に陥っていたほかのふたりの子供のために、すばらしい愛の模範を示されました。それにより、このふたりの子供たちは、マイスクールに来つつ、学校に戻り、母親たちは、今宣教師から毎週我が家でレッスンを受け

ています。

末日聖徒となったこの1年半の間に、私たちはとても言葉では言い尽くせないほどのたくさんの祝福を頂きました。私たちがこれまで宣教師に紹介した人々は70人に達し、その間に主人のバプテスマがあり、セミナークラスの生徒とそのお母さんのバプテスマもありました。多くの人々の触れ合いの中で、不完全な私たちが迷いや孤独感を感じ、自分たちの弱さを知ったとき、宣教師一人一人と、真の兄弟姉妹として論じ合い、愛し合えたことを感謝します。マイスクールを通して、本当に多くの人々と出会うことができました。

マイスクールの<sup>かなめ</sup>要であります「セミナークラス」を通して、生徒たちの心、家庭の状態、そして喜び、悲しみが手に取るようにわかります。私は「セミナークラス」が、真実の愛と奉仕によるものであり、主が生きて導いてくださっておりますことを心より証いたします。生徒一人一人が霊の目を開け、お互いに関心を示し、純粋に神を賛美している様子を見るとき、私の心は幸福感でいっぱいになるのです。(ふじたに・リエこ 1950年生まれ、新居浜支部セミナー教師)



はずがないと思ったのです。

なぜ私がこれほどまで神の体と人の体を比べて考えるかと言いますと、私は生まれながらの障害者で、体のハンディのために自分の思いや願いが次々と消えていく人生を送ってきたからです。

こんな私にいろいろな宗教を勧める人がたくさん来しました。しかし私はその人たちにひとつのことを質問し続けました。それは彼らが信仰している神様や仏様は私たちと同じ肉体を持っている方かどうかということでした。私のこの質問に対して、ある人はわからないと言うし、またある人は愚問であると言ってあざ笑ってもしました。

そんな毎日が8年も続いた頃、私の末の弟が英語の勉強のために小岩の教会に行くようになりました。ところが彼は1年くらいで教会員になり、社会見学だと言って私を教会に連れて行ってくれました。私にとってまったく初めての経験で、特殊な雰囲気によって圧倒され、出迎えてくれた人たちの顔さえ覚えていませんでした。ただ外人宣教師と日本の兄弟姉妹が数人広い礼拝堂で聖餐会を行っていたのを、今もはっきりと覚えています。

そんなことがあって1年くらいたったある晩、私はひとつの夢を見ました。それは私の前に広い砂漠があり、突然私の前に白い衣を着た男の人が現われ、「私はイエスである」と言われて私をご覧になりました。私はもう一度尋ねました。「あなたはどなたですか。」するとそのお方は「私はイエスである」と言われました。その方は私に末の弟に従えと言われて天に昇られました。

この不思議な夢を3晩も続けて見たので弟に話しました。弟は、「兄さん、もしかするとそれは神様のお導きかもしれないよ」と言いました。私はどうしたらよいかと尋ねました。弟は私にバプテスマを受けないかと言いましたが、私には大きな問題がありました。私は重度障害者であるために学力もないし、人とのつき合い方も知らないのです。ただできることは平仮名が読めるだけです。そんな私に弟は「教会の教えが書いてある聖典はみな仮名が振ってあるから安心してよ、兄さん」と言ってくれました。

弟の言葉に勇気づけられた私は、弟に

## 「あなたの教会の神様は 肉体があるのですか」

東京東ステークス千葉ワード部 宮城 貞夫

**私**は教会に入る10年ほど前にラジオで毎週日曜日に放送されていたルーテルアワーという番組を欠かさずに聞いていました。その番組で話されるルーテル教会の牧師さんの聖書のお話にとっても魅力を感じました。

あるとき旧約聖書創世記第1章27節を

引用して、主なる神は人を造られ、ご自分の体に似せて土で造られたと言われました。それを聞いて、私は今まで考えていた疑問の答えが得られたような気がしました。もしこの世に神が存在するならばご自身が私たちと同じ肉体を持っていないければ、私たちの痛みや苦しみがわかる

## 各地のたより



●宮城けい姉妹と息子さんの貞夫兄弟

次のような質問をしました。「あなたの教会の神様は肉体があのですか」と。そうしますと弟は父なる神とイエス・キリストは別々のお方で、肉体を持って存在していると教えてくれました。さらに1820年アメリカの少年ジョセフ・スミスに現われて、そのおふたりのうちのおひとりがもうおひとりを指さされて、「こはわが愛子なり、彼に聞け」と言われ、そのおふたりとは父なる神と救い主であったことを説明してくれました。私はこの話を聞いて長年求めていたことの答えがやっと得られてうれしくなり、教会のレッスンを受けることにしました。

バプテスマを1968年3月23日に受け、これをきっかけに私の人生はがらりと変わりました。これも多くの兄弟姉妹のお陰です。ある兄弟は私に車を提供してくれました。神様の真理を何もわからない私に教会の兄弟姉妹は噛んで含めるように教えてくださいました。これらの方々のお陰で今の私があるのだと思います。また非常に恵まれたことに1970年秋にソルトレークの総大会に家族と共に出席させていただきました。これが私の最高の思い出です。

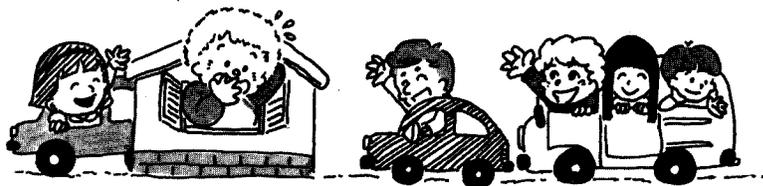
その後、私はいろいろな事情で10年間教会を休んでいました。その間はとてつらい情けない思いで暮らしていました。3年前、そんな私

に神様は千葉ワード部の兄弟姉妹を差し向けてくださいました。

今では千葉ワード部の兄弟姉妹の助けを得てほとんど毎週教会に出席させていただいています。神様と兄弟姉妹の奉仕に心から感謝しています。それに何よりも大きな祝福は、私のふたりの弟と妹が教会の兄弟姉妹と結婚して大勢の甥や姪を神様から授かり、私をよく助けてくれることです。体の不自由な私にとってそれはとてもありがたいことです。

人間は当たり前前の方が当たり前前のできる肉体をいただいていることが一番大きな祝福のように思います。なぜなら、父なる神様もイエス・キリストも私たちと同じ形をして同じ機能を持っておられるからです。これを忘れると私たちは感謝することを忘れてしまいますが、逆に忘れなければどんな誘惑にも打ち勝つことができるように思います。

確かにこの福音が真実であることを証します。また私をこれまでいろいろな形で助けてくださった多くの兄弟姉妹に心から感謝を申しあげます。(みやぎ・さだお 1938年生まれ)



## 重度障害者の息子に学んで

「自分の運は自分で切り開かなければ、いばらの道は絶えない」

東京東ステークス部八千代ワード部 宮城 けい

**私**は親も兄弟も早くに亡くし、孤独でしたので、結婚して子供が5人も授かったことを大変幸せに思っています。

次男の貞夫が生まれたときは、早期破水で難産のため仮死状態で生まれました。逆さにして背中に霧を吹きかけ、手のひらで3回ほどたたいてやっと声をあげましたが、産声と言うにはあまりにもか細い声でした。舌に力がなくて吸うことができないので、授乳のときはカップにお乳を絞ってスプーンで流し込むようにして飲ませました。首や手足がだらりとして、背負ったときは頭を手ぬぐいで支え、両端をおぶい紐で結んでいました。

せつかく命が助かったのにこのままではもったいない、何とか少しずつでも良くなる方法はないものかと専門のお医者を探歩きましたが、どの先生からも納得できる診断は得られませんでした。

ある先生は親の梅毒の遺伝ではないかと言いました。生まれたばかりの赤ちゃんから血液を採ることはできないので親の血液検査をしましたが、まったく梅毒の気はないと言われ、念のために検査したことはありますが、心の中では腹立たしい思いでいました。

最後に見ていただいた先生に出産の様子を聞かれて詳しくお話ししました。その医師によると、早期破水で胎児が仮死の場合、親の体力だけで生むので赤ちゃんの頭が出た瞬間に首を締めた状態になって、脳から発信する運動神経をマヒさせることになり、大体助からないのですが、貞夫の場合は心臓が強かったので助かったと言われました。病名はリットル氏病です。脳も侵されること

## 各地のたより

が往々にしてありますが、年数がたってみないとはっきりしたことはわからないとのことでした。

3歳ぐらいまで、お風呂に入るときとお乳をあげるとき以外は私の背中に負われたままでした。今夜こそと布団に寝てくれるのを祈りながら眠った息子を静かにおろしても、静かなのはつかのま、全身の神経がつるのですぐに激しく泣きます。やはり背中にしっかりとおぶってあげた方が安心して眠れるのです。これが大人だったら痛い苦しいと叫び続けているだろうと思うと、代われるものなら代わってやりたい気持ちでいっぱいでした。

「人は幸せも不幸も前世からの約束事で、それを悲しんだり逃れようとするのは最も卑怯(ひきょう)で弱虫(じやくちゆう)な考えであって、どんなことがあっても自分の運は自分で切り開かなければ、いばらの道は絶えない」と、亡くなった母が私に言いかせていた言葉をいつも思い出していました。

息子が10歳になったとき、樫の木で作った長さ1メートル横40センチ深さ50センチの細長い箱の中に布団を合わせて作って座らせてみましたら、今まで寝た格好でしか見られなかった物が座って見られるのでとても喜びました。彼のあんなに喜んだ顔を見たのは初めてでした。

15歳になったとき「お母さん、ぼく字を読みたい」と言うので、玩具の黒板を買ってきて毎日平仮名を3字ずつ書いてあげました。すると1カ月もしないうちにすらすらと読めるようになったので新聞を読ませてみました。結構正確に読めるので私はとてもうれしくて涙が止まりませんでした。当時の新聞や本には仮名がふってあり彼はだんだん漢字も読めるようになって、10年ぐらいの間に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、大宇宙、ガン(趣味のモデルガンの本)など19巻くらい読みました。音楽はクラシックが好きです。

やがて息子は30歳になった頃、弟に連れられて教会に行きました。大変に感激してそのどきの様子を話してくれました。彼もやっと自分の探し求めていた道にたどり着いた気持ちでしょう。今は一生懸命に自分の足で歩こうと訓練に励んでいます。

私は小学校一年生のとき、近所にあっ

た日本救世軍イエス・キリスト教会で日曜学校に行ったり、クリスマス会を行なったときのことが幼心に楽しかった思い出として印象に残っています。

やがて60歳になった頃、末の息子に紹介されて小岩にあった末日聖徒イエス・キリスト教会に行くようになり、1968年にバプテスマを受けました。聖典を読んでいくうちに、御父のみ恵みや私たち一人一人に託されている現世での使命、また前世で御父から私に与えられた責任を果たすことを約束して、納得のうで自分がこの世に生まれてきたことがだんだ

んわかってきました。貞夫を私にお与えくださったのは、私の霊性を向上させるひとつの方法であり、天父のみこころであったと思っています。

「霊性とは己に打ち勝とうとする気持ちであり、神と交わろうとする心である」とデビッド・O・マッケイ大管長は言われました。御父のみこころにかなうよう努力して参りたいと思います。神様の偉大な愛と兄弟姉妹のご厚意に心から感謝いたします。(みやぎ・けい 1910年生まれ、八千代ワード部扶助協会教師)

♥我が家の「家庭の夕べ」の紹介♥

### 市橋さんちの家庭の夕べ

名古屋ステーキ部名古屋南支部 市橋 美智子

「きょうの『家庭の夕べ』は家族歌合戦だよ。」

マイクとラジカセを前にして、子供たちがマイクの取り合いをしています。

「次は私の番だよ、お姉ちゃんばっかり、ずるいよ。」

「まだ、終わっていないんだから、もう。」

我が家の子供たちは歌うこと大好き人間なのです。

#### ゲーム宝さがし

名刺ほどの紙に、いろいろな隠し場所の名前を書きます。そしてヒントで始めて、次から次へとポイントにある紙を見つけて、最後に宝を見つけたすというものです。

このゲームが始まると、家中をめまぐるしく子供たちが走り回ります。親は、いつ宝にありつくか、ニヤニヤしながら見つめています。とうとう冷蔵庫の中のアイスクリームを見つけて、大成功。

#### パープサート

今度はやや本格的です。走り高飛びのように、両端にスタンドを立てて、パーを渡し固定します。簡易舞台のできあが

りです。厚紙にヨナさん、船乗りさん、くじらさん、船などの形を切り抜いて色をつけます。主役、脇役、読み手、演技手が割り振られます。子供たちも、もちろん総出演します。製作費は1,500円ぐらいでできました。聖書のお話は、よく知っていますが、いざ自分たちが演じよう



## 各地のたより

とすると、船の大きさから勉強しますので、とても良い経験になります。

子供たちは「家庭の夕べ」が大好きです。長女はゲームがあるから大好き、次女はリフレッシュメントが目あて、とにかくみんな「家庭の夕べ」が大好きです。「家庭の夕べ」を神様からの勧告とし

て、戒めとして家庭の中に定着させるためには、かなりの工夫が必要です。家庭で話し合い、よく準備するためには夫婦の協力が必要です。我が家の成功の秘訣は、まず夫婦の和合から始まりました。

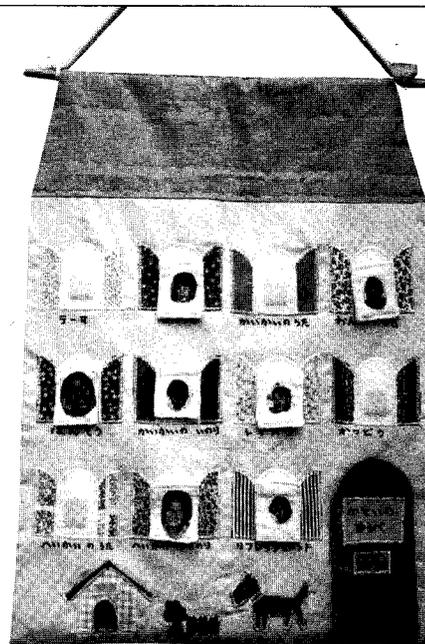
(いちはし・みちこ 名古屋南支部扶助教会教師)



♥我が家の「家庭の夕べ」の紹介♥

### 石川さんちの家庭の夕べ

名古屋ステーキ部  
春日井支部  
石川 賢一



●はぎれて作った家庭の夕べの壁かけ(写真はマジックテープで張り替えが出来る。右下のドアは開閉できるようになっていて写真などがしまっている)

マン民族の土着宗教の祭りが、外来宗教であったキリスト教と結びついてできたものだ、などと理屈をつけて「鬼は外、福は内」をやっています。

月見：秋になると団子を作ってアパートの隣の公園に行ってお餅を敷いて月見をします。(月に団子を供えることはしません)花鳥風月を愛でる日本人の感受性を子供たちに伝えたいと思います。なお、今年の中秋の名月は雨で見えませんでした、団子は食べました。

復活祭：イースター・エッグにちなんで、鳥の巣を形どった小さなケーキを皆で作ります。昔の初等教会のテキストに載っていたアイデアです。

クリスマス：子供たちに、マリヤとヨセフなどの衣装をさせて、写真に撮ってクリスマスカードにします。

年末：1年間のおもな出来事を小さなカードに書き出して、家族にトランプのように配ります。全員が1枚ずつ出して、どれが一番楽しかったか挙手で決め、家族の夕べのノートに張りつけます。職場で習ったKJ法を応用した、「家族の重大ニュース」です。

子供たちの成長とともに、私の家庭の夕べも成長しています。(いしかわ・けんいち 1951年生まれ、名古屋ステーキ部第二副ステーキ部長)

「家庭の夕べ」に一度も出たことのない者同士が結婚して早10年。あちこちでお話を聞いたり、「家庭の夕べアイデア集」や「聖徒の道」の記事を参考にしながら、いろいろと工夫をしています。

子供たちは2歳で「音楽指揮」、3歳で「祈り」、4歳で「司会」をするようになります。司会者と私が相談してプログラムを決め、専用のノートに記録します。(子供たちはノートの余白に絵を描くのが好きです)決まったプログラムをマジックテープを活用して作った「家庭の夕べ壁かけ」に掲示します。

今のところ子供たちは5人とも初等協会の年齢ですので、開会、閉会の歌は「子供の歌」から選んでいます。祈りのあとは「分かち合いの時間」です。小学校で作った粘土細工や、幼稚園で習った遊戯などを発表し合います。

レッスンは短いほどいいようです。ときどきは「聖徒の道」の子供のページを回し読みします。親が考えたレッスンでは偏ってしまうので、「家庭の夕べアイデア集」を使っています。妻も私も初等協

会の教師に召されたことがあり、その折の経験が役立っています。

活動の時間は、ゲームで大笑いします。刈谷支部の小森茂樹兄弟に教えてもらった「動物ものまねクイズ」、幼稚園で子供が習ってきた「ロンドン橋が落ちこちる」「羅漢まわし」などは人気があります。

子供たちの作ったクッキーをリフレッシュメントにすることもときどきあります。白と黒(チョコレート)の2色の生地を使って「あっ」と驚くクッキーができます。食べてなくなるのも「あっ」と言う間です。

10年の間に、次のような「年中行事」が定着しました。

年間7回の誕生パーティー：出費を抑えるために始めた妻の手作りケーキも年季が入ってきました。私は子供たちの頭に手を置いて父親として「誕生日の祝福」をします。

節分：豆まきをします。交替で面を付けて鬼の役をします。「異教的」な習俗なので、クリスチャンの家庭でやることに最初は抵抗がありましたが、クリスマスやバレンタインデーも歴史的には、ゲル

## 各地のたより

●昨年、クリスマスも間もない頃、天父の愛をテーマに聖餐会でお話を依頼され、心に浮かんだ詩です。自分に言いかけせるために書きました。



### きこえますか…

東京北ステキ部川越ワード部

斉藤 明子

きこえますか？

私はあなたの天の父です

見えますか？

あなたと同じ手と足と  
目と耳と口をもった……

私はあなたの父です

あなたはなぜ母の胎からこの世に  
生まれたのですか？

残りの3分の1の霊と共に  
とどまることもできたのに――

あなたになぜ福音が  
伝えられたのですか？

あの日、主のしもべはあなたを  
通り過ぎることもできたのに――

いつの日も、私にとってあなたは  
黄金なのです

あなたが自分で1だと言っても  
まわりの人々があなたを10だと言  
っても  
私はあなたの1億の可能性を  
知っている

私をめざして、日々最高の自分に  
なりなさい！

なぜ、祈りは答えられるのでしょうか  
なぜ、祈りは答えられないのでしょうか

あなたを愛しているからです

あなたがつまずき、ころんだとき  
こぶしをにぎって「立ち上がりなさい、  
ほら！

できる、もう少しだ！」と叫んだのが  
きこえましたか？

あなたが自分を卑下し、うつむいたとき  
思わず両手を伸ばし

抱きよせたかったことを  
知っていますか？

あなたが怒りをぶつけて背を向けたとき

どんなに、どんなに悲しかったか  
知っていますか？

あなたが別れ道で立ち止まったとき  
かたずをのんで見守ったことを  
そして いましめを守るために  
福音を伝えるために  
犠牲を払い、背すじを伸ばして  
立ち上がったとき  
どんなにうれしく、いとおしく思ったか  
知っていますか？

あなたさえ気がつけば  
私はいつでもあなたのそばにいます

思いきり笑い、思いきり泣き、  
思いきり苦しみをぶつけ、  
思いきり甘えていいのです  
あなたのありのままを  
愛しているのですから……

けれど きっと立ち上がって  
歩いてきてほしい

1歩しか歩けない日も  
全速力で走れる日も  
私の名を呼びながら  
私があなたの名を  
いつも呼んでいるように……

メリークリスマス  
きこえますか？ 私の声が……

メリークリスマス  
見えますか？ 私の愛が……

(さいとう・あきこ 1958年生まれ、川  
越ワード部扶助協会教師)

### 編集室から

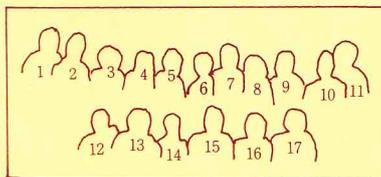
●心に残った記事の感想文、各地の話題や行事、「日々の恵み」コーナ  
ーの証、「職業と信仰シリーズ」、カットなどをお送りください。来年  
2月号掲載分の締切りは12月10日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電  
話番号)と教会での責任(役職名)、生年月日を記入してください。  
お送りいただいた原稿は一部手直しすることがあります。

●あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリ  
スト教会「聖徒の道」編集室 ☎03(444)5264



●「我が家の家庭の夕べ」をテーマ  
とする原稿の募集に対し、今回掲載  
の2件の投稿がありました。引き続  
き皆様の投稿をお待ちします。

# 9月に召された JMTCC第88期生 17名の名簿



S : ステーキ部, D : 地方部  
W : ワード部, B : 支部



〈名 前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉	〈名 前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 上西 博之	町田S / 藤沢W	大阪伝道部	10. 赤 沢 直 樹	大阪堺S / 三国丘W	札幌伝道部
2. 岸 本 誠 司	名古屋S / 名東北W	札幌伝道部	11. 山 口 俊 哉	東京北S / 中野W	福岡伝道部
3. 清 水 良 子	札幌S / 豊平W	福岡伝道部	12. <small>はとあつこ</small> 羽土亜津子	名古屋西S / 御器所W	大阪伝道部
4. 長崎真理子	大阪北S / 京都洛南W	札幌伝道部	13. <small>ひばら</small> 白原知枝子	広島S / 光W	福岡伝道部
5. 川合伸代	名古屋S / 岡崎W	仙台伝道部	14. <small>くろやなぎ</small> 畔柳久美子	名古屋S / 岡崎W	福岡伝道部
6. 石 神 和 子	東京南S / 渋谷W	仙台伝道部	15. 水 野 秀 子	名古屋S / 名東北W	札幌伝道部
7. 村田美代子	山口D / 宇部B	福岡伝道部	16. 草 園 菊 江	山口D / 宇部B	東京南伝道部
8. <small>おらして</small> 表 とし子	北陸D / 金沢B	札幌伝道部	17. 板橋奈穂子	仙台S / 上杉W	福岡伝道部
9. <small>はねだ</small> 羽 田 徹 子	郡山D / 郡山B	東京南伝道部			